

第1章 周辺環境と本院の状況

1 医療政策

(1) 国の医療政策の動向

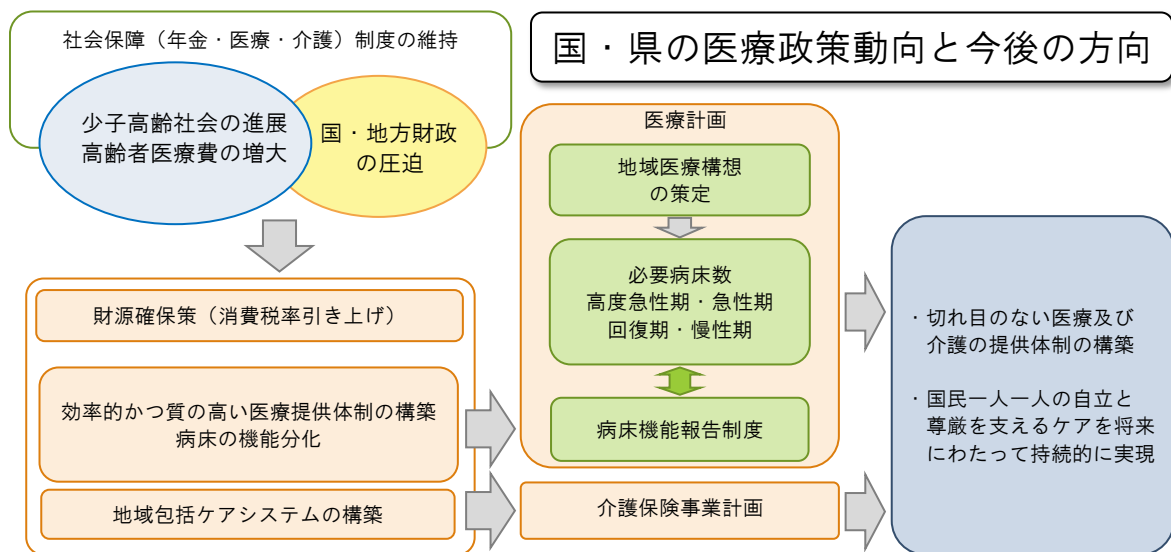
少子高齢社会の進展に伴い、年金や医療、介護などの社会保障費は、毎年急激に増加しており、国・地方の財政の大きな部分を占めています。その一方で、かつてのような高い経済成長率が望めなくなったことから税収は歳出に対して大幅に不足する状況となり、現在では国の歳入の約4割は国債に依存するという状況となっています。

団塊の世代（1947年～1949年に出生）が75歳以上となる平成37年度（2025年度）には、平成24年度（2012年度）に109.5兆円であった年金、医療、介護等の社会保障給付費は、148.9兆円になると予想されています。

このようなことから、国は社会保障制度を将来にわたり継続維持していくため各種の施策や制度改革に取り組んできました。

財源の確保については、平成24年2月に「社会保障・税一体改革大綱」が閣議決定され、財源確保策として、消費税を段階的に10%に引き上げることとなりました。

医療・介護サービスの提供においては、病床の機能分化・連携、在宅医療・介護の推進、地域包括ケアシステムの構築といった医療・介護サービス体制の改革が急務となっています。



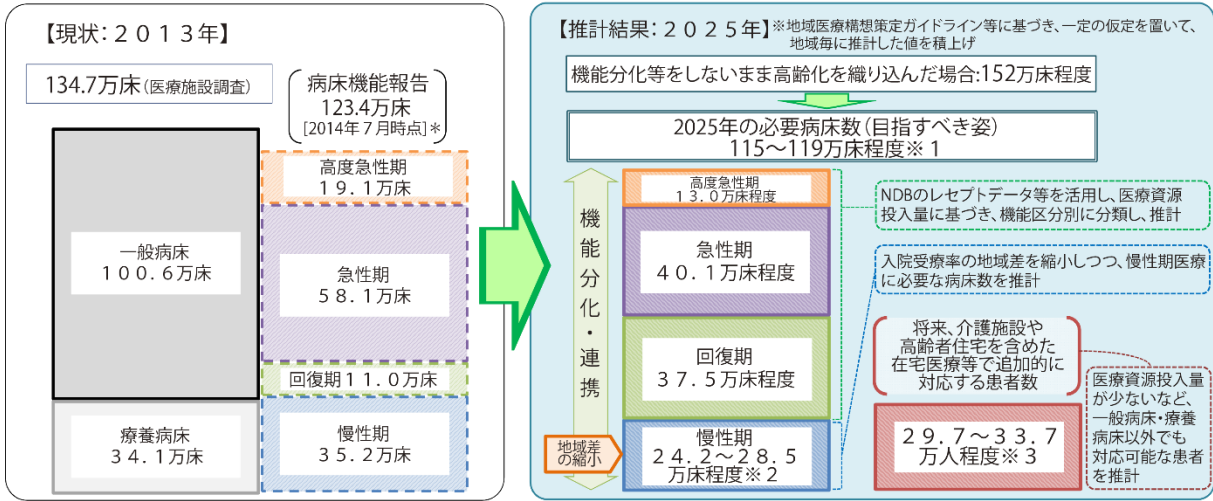
ア 病床の機能分化

病床については、一般及び療養病床を高度急性期、急性期、回復期、慢性期に分け、病状に見合った患者を受け入れるよう機能再編を行い、医療資源の効果的な運用を図る方針です。

医療法改正により、各医療機関は現状と将来の病床機能を報告することが義務付けられました。また、都道府県においては圏域ごとに将来の必要病床を定めることとなります。本院もこうした病床機能の整備方針を踏まえた事業展開を図る必要があります。

なお、平成27年6月15日には次のような医療機能別必要病床数の推計結果が公表されました。

2025年の医療機能別必要病床数の推計結果(全国ベースの積上げ)



*未報告・未集計病床数などがあり、現状の病床数(134.7万床)とは一致しない。
 なお、今回の病床機能報告は、各医療機関が定性的な基準を参考に医療機能を選択したものであり、今回の推計における機能区分の考え方によるものではない。

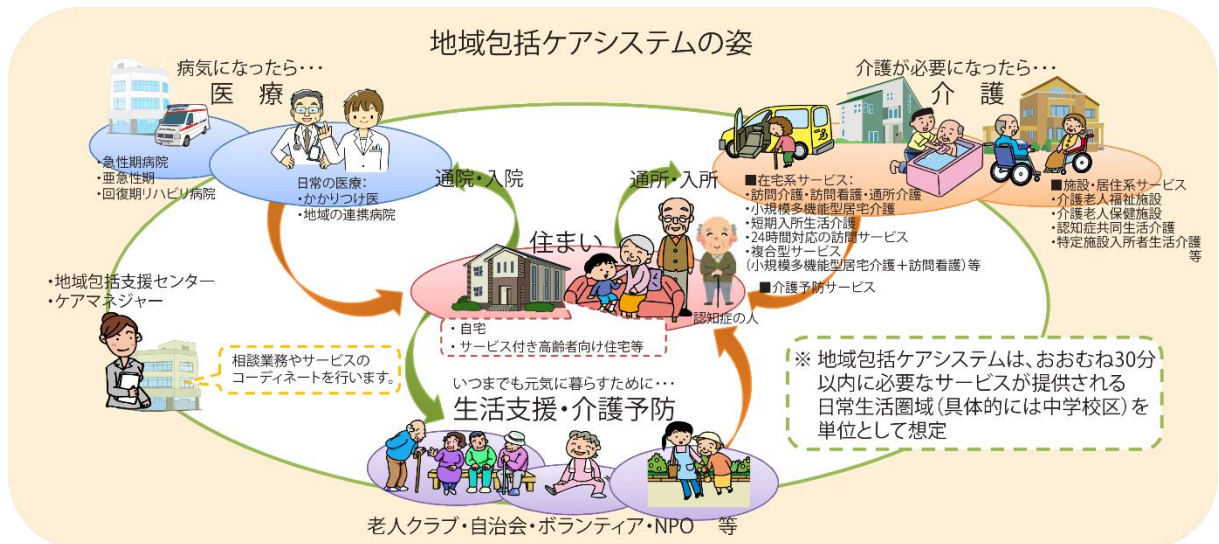
※1 パターンA:115万床程度、パターンB:118万床程度、パターンC:119万床程度
 ※2 パターンA:24.2万床程度、パターンB:27.5万床程度、パターンC:28.5万床程度
 ※3 パターンA:33.7万人程度、パターンB:30.6万人程度、パターンC:29.7万人程度

出典：医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会 第1次報告(平成27年6月15日)

イ 地域包括ケアシステム

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を、国は目指しています。

地域包括ケアシステムは、介護保険の保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていきます。この中で、医療面での連携強化を図ることが本院に求められます。



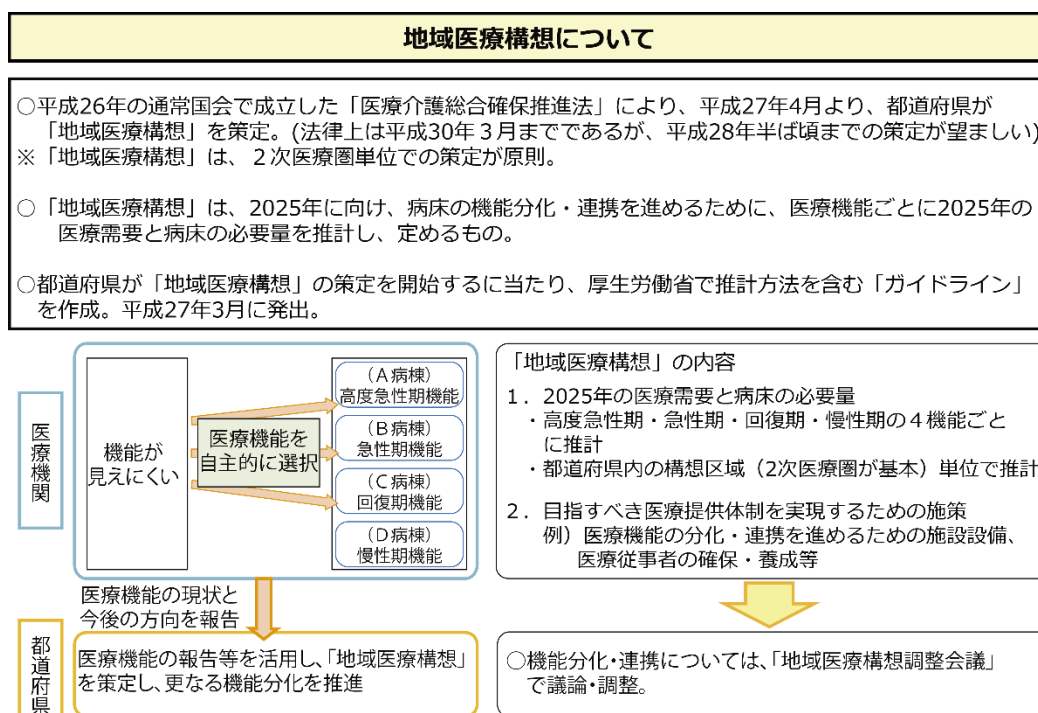
出典：厚生労働省資料

(2) 県の動向

ア 地域医療構想の策定

各都道府県は、国が示す地域医療構想策定ガイドラインに基づき、構想区域ごとの将来的な医療需要と供給量を示した「地域医療構想」の策定を予定しています。この構想に基づき、各医療機関の病床機能の分化と連携が図られることとなります。今後、各医療機関は病棟単位で病床機能を選択した上で、機能に応じた患者の集約や、必要な体制の構築などを検討することが求められます。

地域完結型の医療の提供においては、それぞれが機能分担・連携を図り、その役割を果たすことが重要になります。



出典：厚生労働省ホームページ

イ 静岡県の保健医療計画の概要

- ・各都道府県は、医療法と国の指針に従い保健医療計画を定めています。保健医療計画は5疾病(がん、急性心筋梗塞、脳卒中、糖尿病、精神疾患)、5事業(救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療)及び在宅医療について医療連携体制の構築等の方針を示すものです。なお、静岡県は、5疾病以外に喘息と肝炎を加えた7疾病、5事業及び在宅医療を対象として医療連携体制の構築の取組みを進めています。
- ・平成27年3月に策定された静岡県保健医療計画は、医師不足や偏在等に起因し、公的病院等での診療科の休廃止や救急医療体制の弱体化など、命を守るために最低限必要な医療の確保が困難な状況に対応し、大規模災害などから「命をまもる医療」の確保を中心に、「発症・重症化予防」、「療養体制の充実」を進める観点から作成されました。
- ・静岡県保健医療計画では、県内を8つの二次保健医療圏に区分し、上記7疾病5事業への対応を中心に、各圏域に応じた整備が進められてきました。二次保健医療圏とは、主として入院医療に対応し、県民に包括的な保健医療サービスを提供する圏域であり、島田市は

志太榛原保健医療圏に属しています。

- 志太榛原保健医療圏は、一般病床及び療養病床の基準病床数3,507床、既存病床数3,510床で、過剰病床数は3床とほぼ均衡のとれた病床整備状況となっています。県全体では基準病床数28,623床、既存病床数31,885床で3,262床の病床過剰となっています。

二次保健医療圏名	基準病床数 A	既存病床数 B	差引 B-A
志太榛原	3,507	3,510	3
静岡	6,166	6,551	385
中東遠	2,543	3,072	529
西部	6,155	7,412	1,257
富士	2,625	2,738	113
駿東田方	5,979	6,501	522
熱海伊東	1,018	1,132	114
賀茂	630	969	339
計	28,623	31,885	3,262

出典：静岡県保健医療計画（平成27年3月）

- 志太榛原保健医療圏内の医療体制は、公立4病院を地域の中核医療機関として構築されてきましたが、平成20年度以降、これらの病院では内科系を中心に、医師の退職による診療体制の縮小等が相次ぎました。特に縮小規模が大きかった榛原総合病院では、平成22年3月から指定管理者制度を導入して経営の改善を図っています。他の3病院では、初期臨床研修医の確保、専門医研修ネットワークプログラムへの参加の呼びかけ等により医師確保に努めた結果、医師数が徐々に増加しています。また、民間病院においても一般病床を100床増床するなど、医療機能の強化が図られています。
- 志太榛原保健医療圏は、特に医師等の医療従事者が少なく、医療体制の確保が難しくなりつつあります。当圏域では、平成22年度から25年度まで国の地域医療再生臨時特例交付金を活用し、病院間の診療ネットワーク化による医療連携の強化、初期救急医療体制の充実による初期・第二次救急医療の機能分担の推進、地域の医療連携推進体制の整備を行い、圏域内の役割分担と連携強化を図っています。
- 静岡県保健医療計画は、平成27年度から29年度までの3年間の計画であり、次期改定は平成30年度からの6年間の計画とすることで、医療計画と介護保険事業支援計画の整合を図ることとしています。

2 本院の周辺環境

(1) 二次保健医療圏別の病床利用率と平均在院日数

志太榛原保健医療圏の一般病床の利用率（67.6%）は、静岡県全域（71.6%）、全国（75.5%）と比べ低くなっています。平均在院日数（14.6日）は、静岡県全域（15.6日）、全国（17.2日）と比べ短くなっています。

二次保健医療圏	病床利用率（%）			平均在院日数（日）		
		一般病床	療養病床		一般病床	療養病床
志太榛原	74.1	67.6	89.1	25.0	14.6	188.2
静岡	76.1	71.2	90.5	27.9	16.5	232.5
中東遠	76.8	67.0	87.2	31.8	14.1	199.5
西部	82.3	75.8	92.8	29.0	15.0	218.9
富士	77.6	70.0	83.8	32.5	15.3	138.4
駿東田方	75.2	70.1	78.9	28.5	16.0	165.0
熱海伊東	83.6	81.1	88.9	26.7	18.4	211.4
賀茂	86.6	81.2	89.4	72.1	24.4	289.2
静岡県全域	78.0	71.6	87.4	29.3	15.6	195.5
全国	81.0	75.5	89.9	30.6	17.2	168.3

出典：平成25年病院報告

(2) 医療従事者の状況

志太榛原保健医療圏の平成25年の人口10万人対医師数（94.9人）は、静岡県全域（128.1人）、全国（162.3人）と比べ少ない状況です。

人口10万人対薬剤師数（20.9人）は、静岡県全域（29.5人）、全国（35.9人）と比べ少ない状況です。

人口10万人対看護師数（400.1人）は、静岡県全域（492.0人）、全国（586.8人）と比べ少ない状況です。

二次保健医療圏別医療従事者数

単位：人

二次保健医療圏	志太榛原	静岡	中東遠	西部	富士	駿東田方	熱海伊東	賀茂	静岡県全域	全国
医師	442.6	1045.6	378.8	1,385.5	294.5	991.2	158.6	64.8	4,761.6	206,658.6
対人口10万人	94.9	147.3	81.8	162.5	76.8	149.5	146.9	93.1	128.1	162.3
薬剤師	97.4	222.2	97.2	289.2	101.9	232.1	37.7	18.8	1,096.5	45,680.4
対人口10万人	20.9	31.3	21.0	33.9	26.6	35.0	34.9	27.0	29.5	35.9
看護師	1,865.6	3,867.2	1,735	4,751.0	1,501.9	3,876.2	430.1	255.4	18,282.1	747,009.2
対人口10万人	400.1	544.9	374.5	557.3	391.6	584.5	398.4	366.8	492.0	586.8

出典：厚生労働省「平成25年病院報告」

(3) 志太榛原二次保健医療圏における病院の配置状況

ア 病院の概要

志太榛原保健医療圏には、本院を含め13病院が設置されています。本院は、DPC対象病院のⅢ群、救急告示病院として認定され、救急医療管理加算を届出しています。

志太榛原保健医療圏における病院概要

単位：床

市町	病院名称	病床数					DPC 対象 病院	救急 告示 病院	救急 医療 管理 加算	地域 包括 ケア 病棟 入院料	回復期 リハビ リテー ション 病棟 入院料
		一般	療養	精神	感染症	結核					
島田市	市立島田市民病院 ※1	536	467	35	20	6	8	Ⅲ群	●	●	●
牧之原市	榛原総合病院 ※2	450	355	42	53			Ⅲ群	●	●	
吉田町	はいなん吉田病院	180		180							
焼津市	医療法人社団高草会 焼津病院	203			203					●	
	医療法人社団綾和会 駿河西病院	200		200							
	コミュニティーホスピタル 甲賀病院	407	379	28					●		●
	岡本石井病院	168	30	138							●
	焼津市立総合病院	471	471					Ⅲ群	●	●	
藤枝市	医療法人社団八洲会 誠和藤枝病院	228		228							
	藤枝平成記念病院	199	113	86				Ⅲ群			
	医療法人社団聖稜会 聖稜リハビリテーション病院	125		125							●
	医療法人社団凜和会 藤枝駿府病院	170			170					●	
	藤枝市立総合病院	564	564					Ⅲ群	●	●	
合計		3,901	2,379	1,062	446	6	8				

出典1：東海北陸厚生局「届出受理医療機関名簿」（平成27年6月）

出典2：静岡県「静岡県保健医療計画」（平成27年3月）

出典3：DPC評価分科会「機能評価係数Ⅱの内訳」（平成27年現在）

※1：市立島田市民病院の現稼働病床数は、一般：467床、療養：35床、感染症：6床、結核：8床、合計：516床
精神病床：20床は現在休床中

※2：榛原総合病院の現稼働病床数は、一般：141床、療養：42床、合計：183床

(4) 志太榛原保健医療圏の病院機能

ア 志太榛原保健医療圏のDPC対象5病院の機能評価係数

「機能評価係数Ⅱ※」の合計値について、本院は藤枝市立病院に次いで高い値となっており、後発医薬品を除いた病院機能等に係る係数の合計は最も高い値となっています。

志太榛原保健医療圏のDPC対象病院の機能評価係数比較

医療機関名	保険診療係数	効率性係数	複雑性係数	カバー率係数	救急医療係数	地域医療係数	後発医薬品係数	機能評価係数Ⅱ合計
市立島田市民病院	0.00730	0.00796	0.00736	0.00770	0.01099	0.00841	0.00931	0.0590
藤枝市立総合病院	0.00730	0.00620	0.00719	0.00826	0.01026	0.01032	0.01269	0.0622
焼津市立総合病院	0.00730	0.00557	0.00511	0.00796	0.01209	0.01033	0.00988	0.0583
榛原総合病院	0.00730	0.00748	0.00669	0.00605	0.01809	0.00284	0.00652	0.0550
藤枝平成記念病院	0.00730	0.01461	0.00773	0.00576	0.00230	0.00220	0.01274	0.0526

出典：平成27年度 第1回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 参考資料 平成27年度期機能評価係数Ⅱ

※上表のピンクの網掛けは5病院中最高値であることを、青の網掛けは最低値であることを示す。

※「機能評価係数Ⅱ」：DPC対象病院において、「データを適切に管理している（保険診療係数）」

「在院日数を短縮化している（効率性係数）」、「様々な患者を受け入れている（複雑性係数）」

「様々な疾患に対応できる体制である（カバー率係数）」、「救急医療をしっかり実施している（救急医療係数）」、「地域に適した医療を実施している（地域医療係数）」、「入院医療における後発医薬品を使用している（後発医薬品係数）」ことなどを数値化した加算点。

数値の合計値が高いほど、高度な医療機能を有するとみなされる。

イ 診断群分類別シェア及びシェア

D P C対象5病院における診断群分類別の患者数及びシェアは下表のようになります。

本院の医療圏でのシェアの評価の目安として5病院のD P C対象病床数割合である26.2%を設定すると、8診断群で目安を超えています。なかでも「眼科」、「血液」、「小児」は最も高くなっています。また、今後患者の増加が予測される「循環器」、「呼吸器」などでシェアが高くなっています。

診断群分類別患者数及びシェア

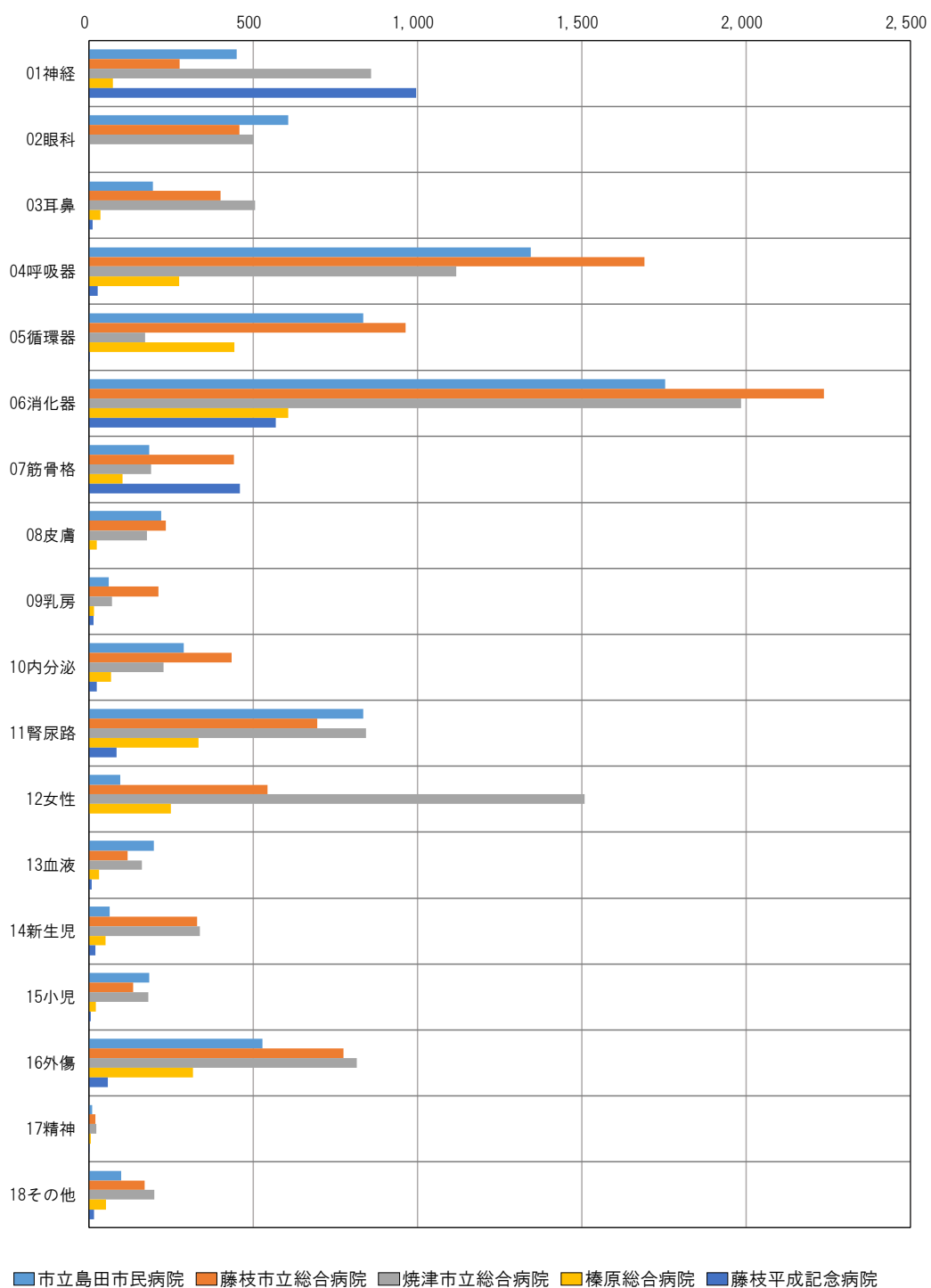
単位：人

診断群分類	市立島田市民病院	藤枝市立総合病院	焼津市立総合病院	榛原総合病院	藤枝平成記念病院	総計
MDC01 神経	450	276	858	73	996	2,653
MDC02 眼科	607	458	502	0	0	1,567
MDC03 耳鼻科	195	401	506	35	11	1,148
MDC04 呼吸器	1,345	1,690	1,118	275	26	4,454
MDC05 循環器	835	963	171	443	3	2,415
MDC06 消化器	1,753	2,237	1,984	607	569	7,150
MDC07 筋骨格	184	441	189	102	459	1,375
MDC08 皮膚	220	234	176	23	1	654
MDC09 乳房	60	211	70	16	14	371
MDC10 内分泌	289	434	226	67	24	1,040
MDC11 腎尿路	835	694	843	334	84	2,790
MDC12 女性器	95	543	1,509	250	0	2,397
MDC13 血液	198	118	162	31	8	517
MDC14 新生児	63	329	338	51	20	801
MDC15 小児	184	134	181	21	5	525
MDC16 外傷	528	775	815	317	57	2,492
MDC17 精神	9	19	22	5	1	56
MDC18 その他	98	170	199	52	16	535
全体	7,948	10,127	9,869	2,702	2,294	32,940

	市立島田市民病院	藤枝市立総合病院	焼津市立総合病院	榛原総合病院	藤枝平成記念病院	合計
D P C算定病床数	439床	506床	471床	147床	113床	1,676床
病床割合	26.2%	30.2%	28.1%	8.8%	6.7%	100%
MDC01 神経	17.0%	10.4%	32.3%	2.8%	37.5%	100%
MDC02 眼科	38.7%	29.2%	32.0%	0.0%	0.0%	100%
MDC03 耳鼻科	17.0%	34.9%	44.1%	3.0%	1.0%	100%
MDC04 呼吸器	30.2%	37.9%	25.1%	6.2%	0.6%	100%
MDC05 循環器	34.6%	39.9%	7.1%	18.3%	0.1%	100%
MDC06 消化器	24.5%	31.3%	27.7%	8.5%	8.0%	100%
MDC07 筋骨格	13.4%	32.1%	13.7%	7.4%	33.4%	100%
MDC08 皮膚	33.6%	35.8%	26.9%	3.5%	0.2%	100%
MDC09 乳房	16.2%	56.9%	18.9%	4.3%	3.8%	100%
MDC10 内分泌	27.8%	41.7%	21.7%	6.4%	2.3%	100%
MDC11 腎尿路	29.9%	24.9%	30.2%	12.0%	3.0%	100%
MDC12 女性器	4.0%	22.7%	63.0%	10.4%	0.0%	100%
MDC13 血液	38.3%	22.8%	31.3%	6.0%	1.5%	100%
MDC14 新生児	7.9%	41.1%	42.2%	6.4%	2.5%	100%
MDC15 小児	35.0%	25.5%	34.5%	4.0%	1.0%	100%
MDC16 外傷	21.2%	31.1%	32.7%	12.7%	2.3%	100%
MDC17 精神	16.1%	33.9%	39.3%	8.9%	1.8%	100%
MDC18 その他	18.3%	31.8%	37.2%	9.7%	3.0%	100%
全体	24.1%	30.7%	30.0%	8.2%	7.0%	100%

志太榛原保健医療圏内のDPC病院のMDC別患者数（年間新入院患者数）

(人)



出典：厚生労働省 「平成26年DPC導入の影響評価に係る調査」

ウ 循環器系疾患に係る状況

循環器疾患患者数についてDPC対象5病院の状況をみると、本院は、藤枝市立総合病院に次いで多くなっています。疾患別では、「弁膜症」、「閉塞性動脈疾患」、「狭心症、慢性虚血性心疾患」及び「急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞」で藤枝市立総合病院を上回っています。

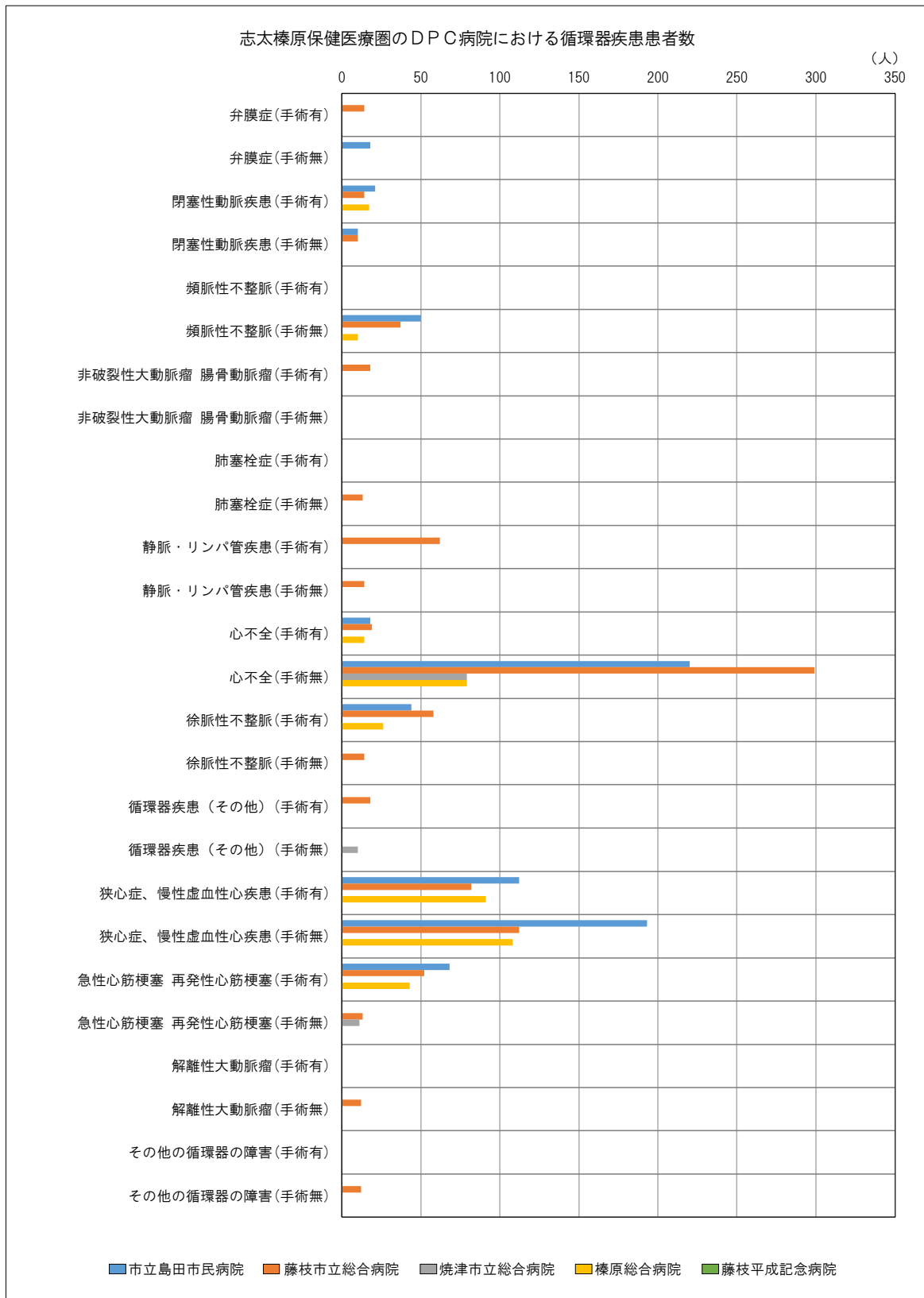
高齢化が進む圏域において、今後も循環器系疾患の需要は高まることが想定されるため、新病院においては、循環器系疾患に迅速に対応可能な体制、施設整備が求められます。

志太榛原保健医療圏のDPC病院における循環器疾患患者数

単位：人

疾患	手術有無	市立島田市民病院	藤枝市立総合病院	焼津市立総合病院	榛原総合病院	藤枝平成記念病院	合計
弁膜症	手術有		14				14
	手術無	18					18
閉塞性動脈疾患	手術有	21	14		17		52
	手術無	10	10				20
頻脈性不整脈	手術有		0				0
	手術無	50	37		10		97
非破裂性大動脈瘤 腸骨動脈瘤	手術有		18				18
	手術無		0				0
肺塞栓症	手術有		0				0
	手術無		13				13
静脈・リンパ管疾患	手術有		62				62
	手術無		14				14
心不全	手術有	18	19		14		51
	手術無	220	299	79	79		677
徐脈性不整脈	手術有	44	58		26		128
	手術無		14				14
循環器疾患 (その他)	手術有		18				18
	手術無			10			10
狭心症、 慢性虚血性心疾患	手術有	112	82		91		285
	手術無	193	112		108		413
急性心筋梗塞 再発性心筋梗塞	手術有	68	52		43		163
	手術無		13	11			24
解離性大動脈瘤	手術有		0				0
	手術無		12				12
その他の循環器 の障害	手術有		0				0
	手術無		12				12
総計		754	873	100	388	0	2,115

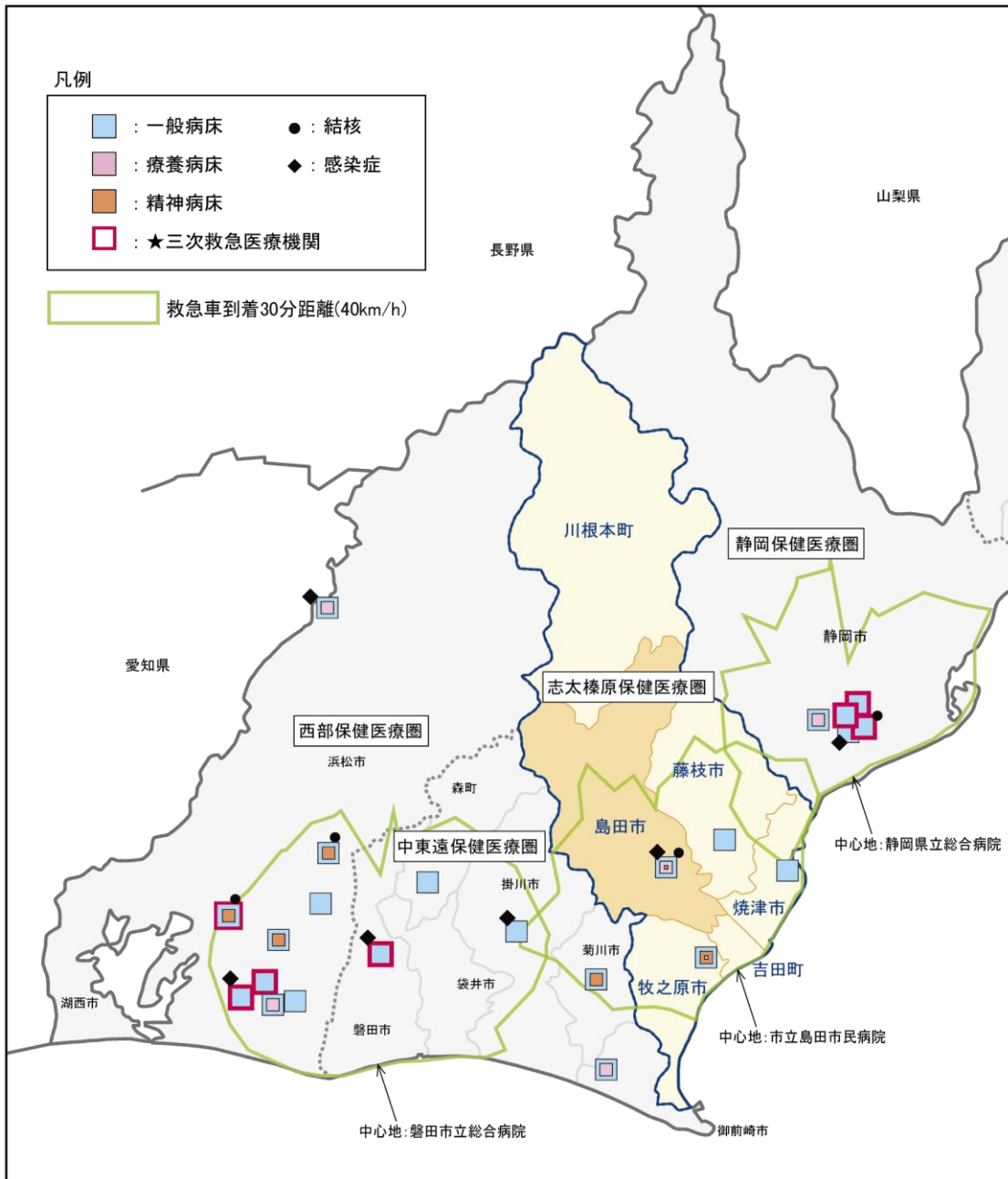
出典：厚生労働省 「平成26年DPC導入の影響評価に係る調査」



出典：厚生労働省 平成26年DPC導入の影響評価に係る調査

エ 医療機関と救急車の30分到達範囲

志太榛原保健医療圏には救命救急センターが設置されておらず、静岡県保健医療計画では隣接する静岡保健医療圏の県立静岡総合病院、静岡赤十字病院及び静岡済生会総合病院が救命医療を担うこととなっています。いずれの病院も島田市（本院を中心とする。）から救急車で30分（時速40kmで算定）以上を要する場所にあるため、一刻を争う救命患者の一部は本院でも対応しています。

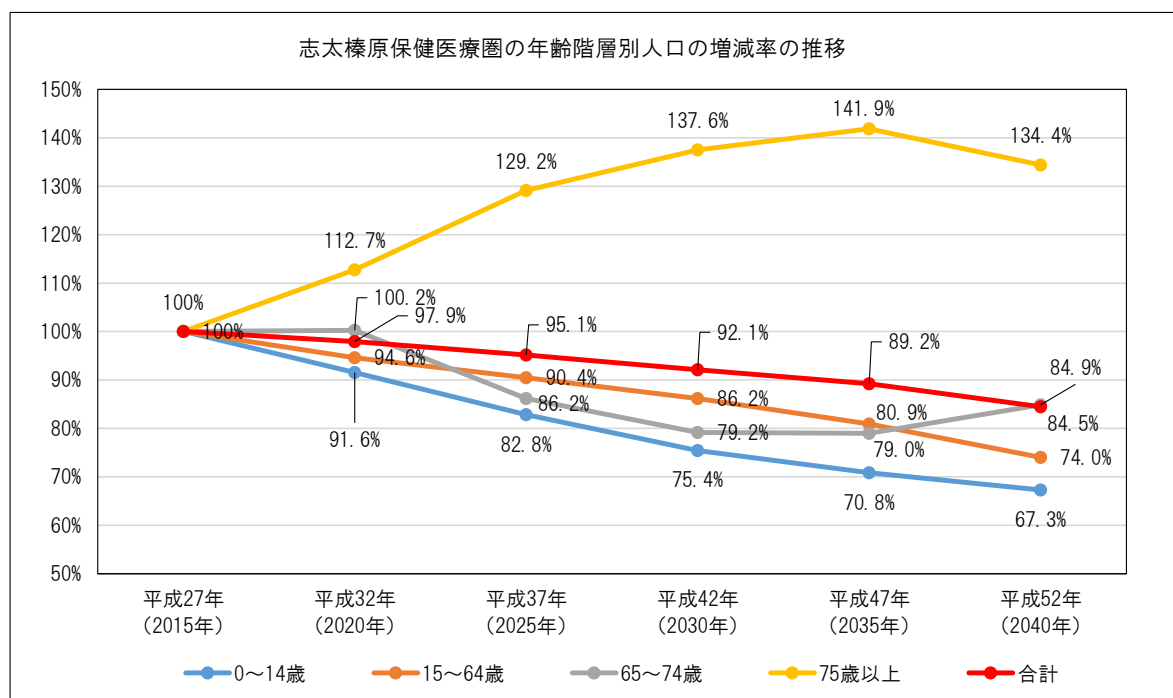
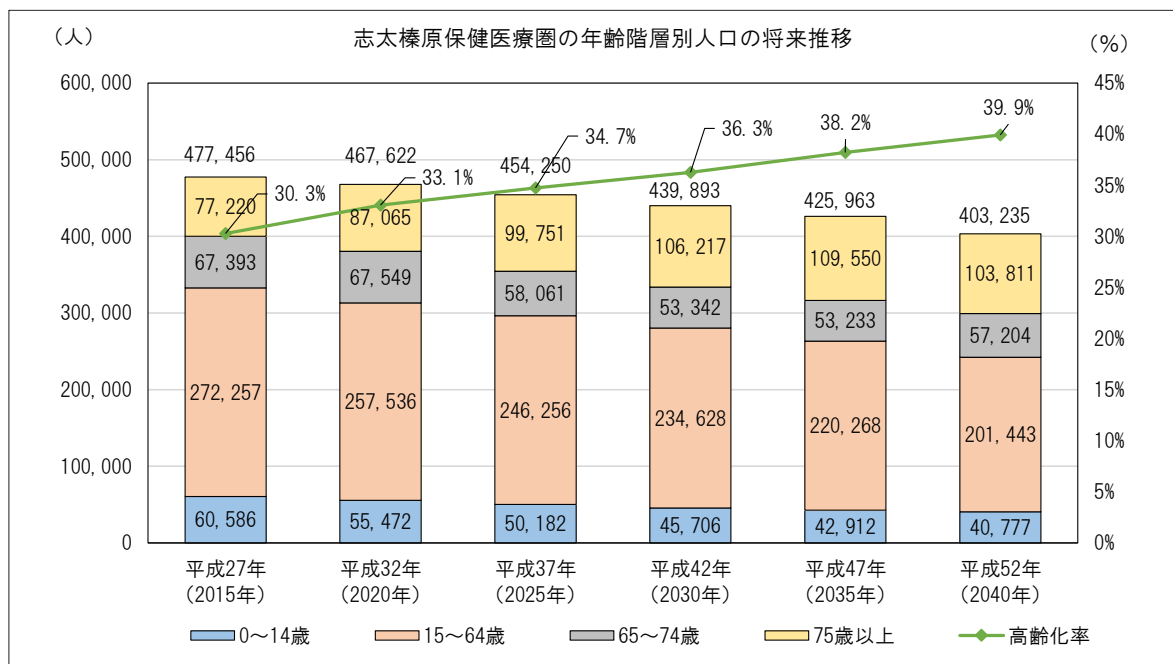


(5) 将来的な医療需要予測

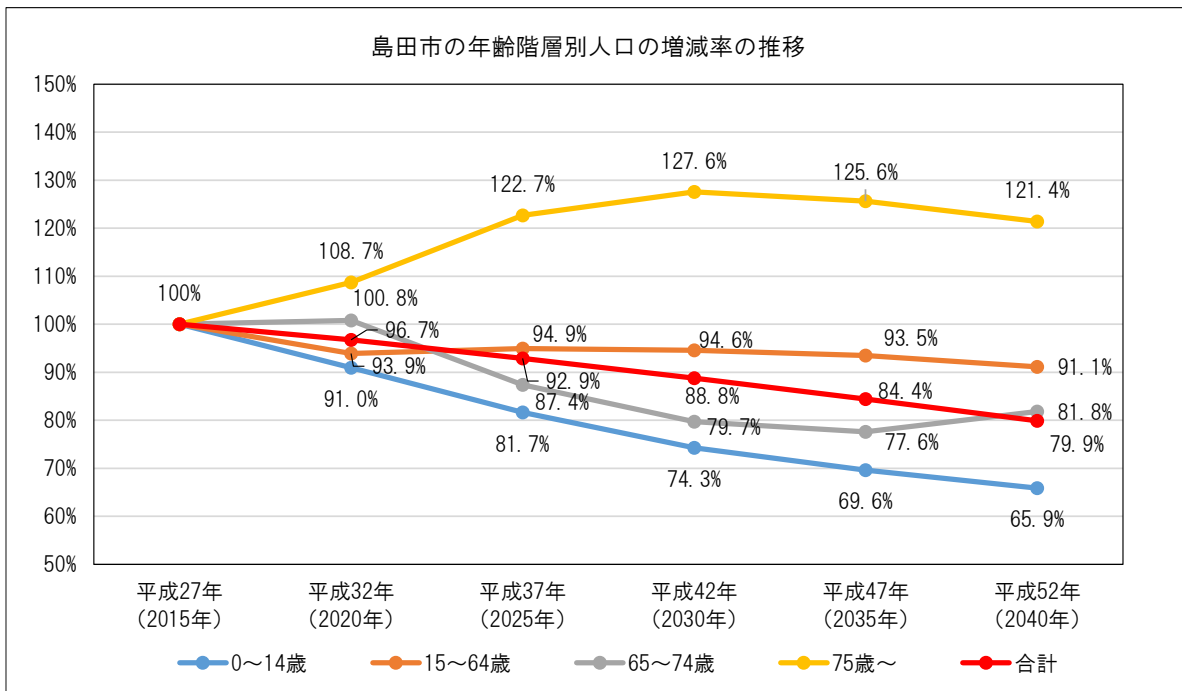
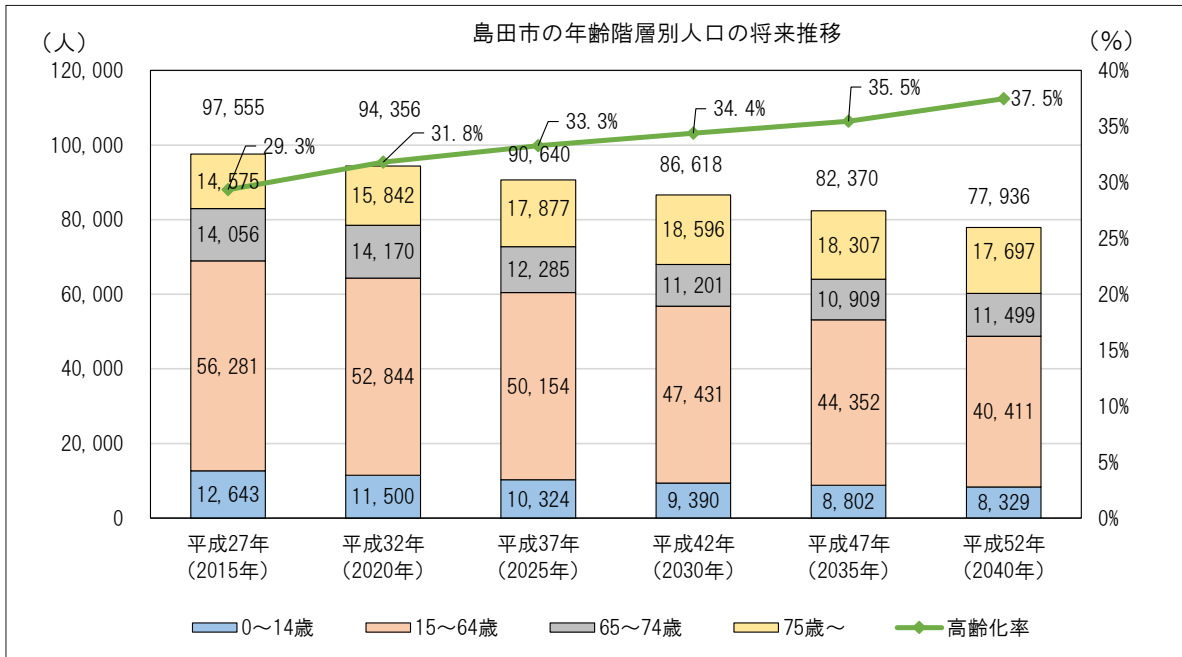
ア 志太榛原保健医療圏及び島田市における将来推計人口

志太榛原保健医療圏の人口は、年々減少し、平成52年には平成27年の84.5%になることが予測されています。

また、島田市の将来推計人口では、平成52年には平成27年の79.9%まで減少する一方で、高齢化率は37.5%まで上昇することが予測されています。特に75歳以上人口は、平成42年まで増加することが予測されています。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

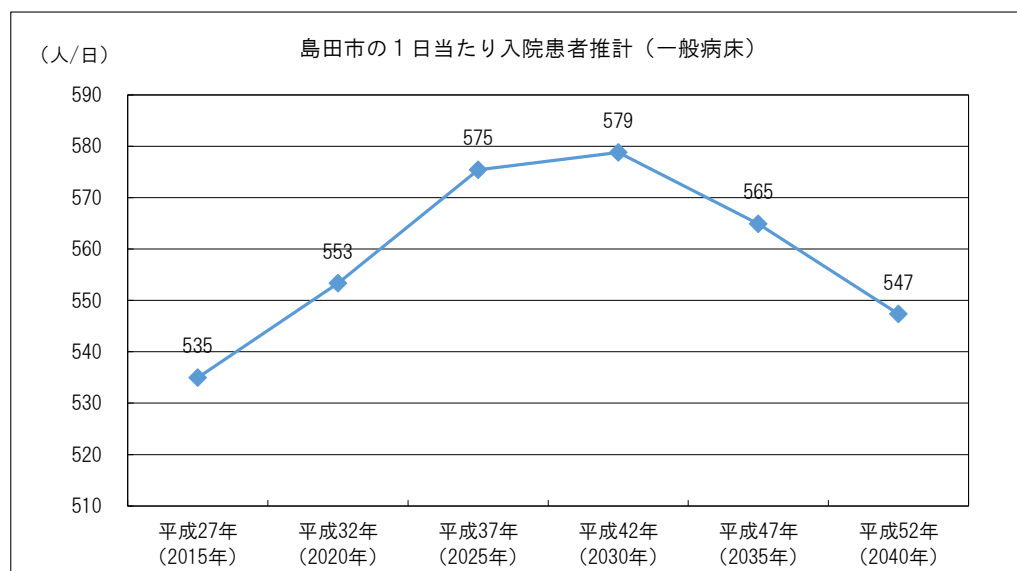
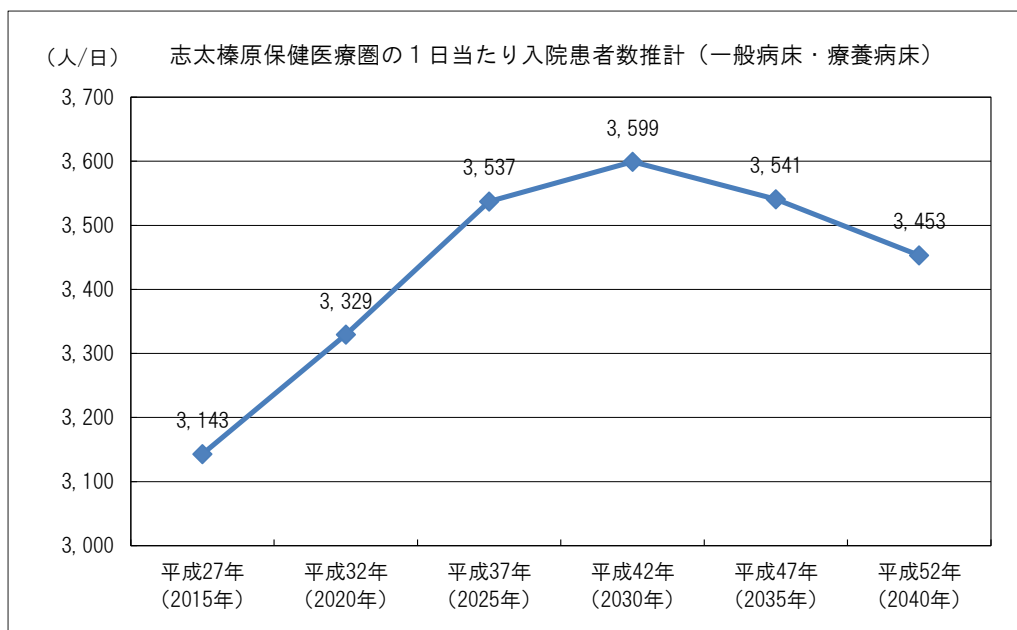


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

イ 志太榛原保健医療圏及び島田市における入院患者の将来推計

志太榛原保健医療圏の1日当たりの入院患者数※は、平成37年（2025年）には3,537人に達し、その後、平成42年まで増加すると推計されます。

島田市の1日当たりの入院患者数※は、平成37年（2025年）には575人に達し、その後、平成42年まで増加すると推計されます。平成27年と平成42年を疾病分類別に比較すると特に「循環器系」、「損傷」、「呼吸器系」などが増加し、「妊娠」などが減少しています。



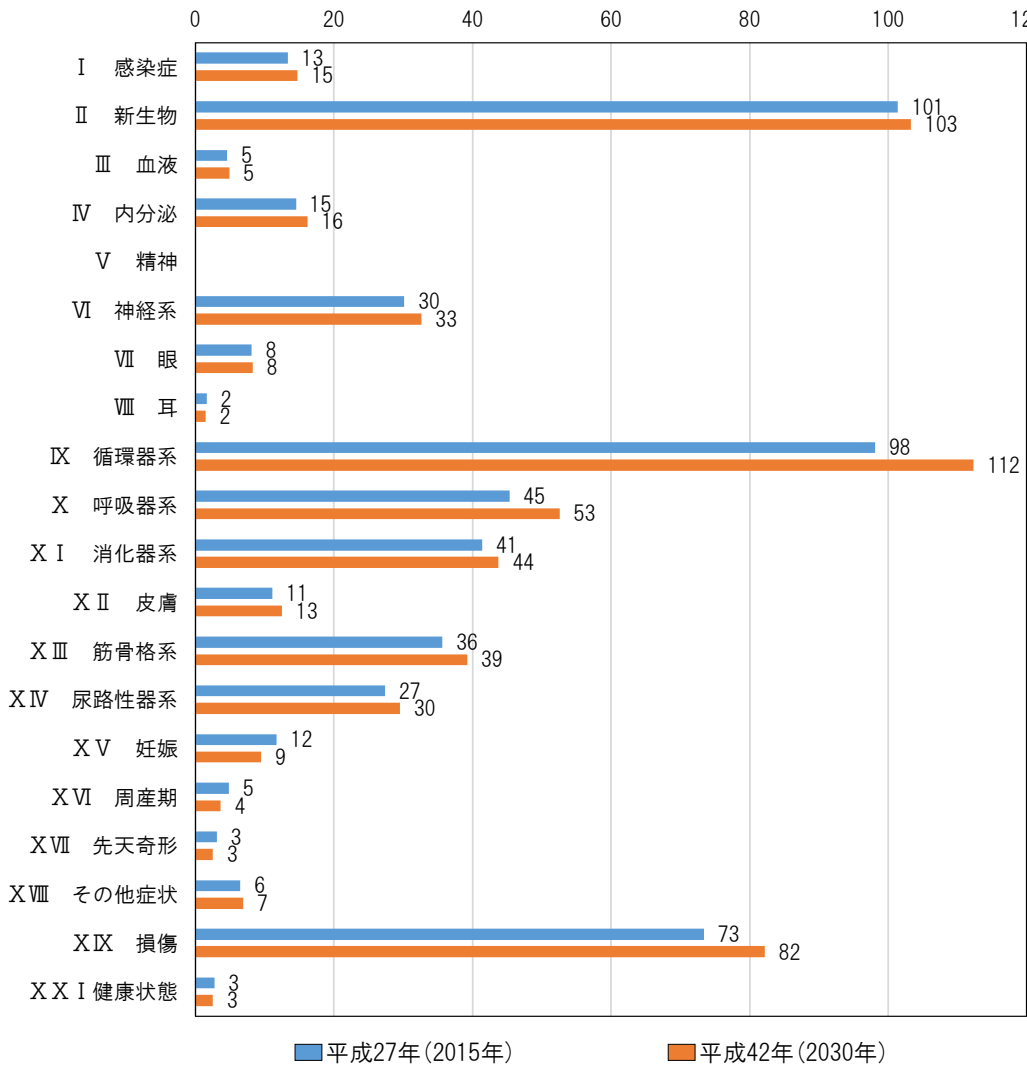
※「志太榛原保健医療圏の1日当たりの入院患者数」は、志太榛原保健医療圏に居住する人のうち1日当たりの入院患者の人数です。

※「島田市の1日当たりの入院患者数」は、島田市民のうち1日当たりの入院患者の人数ですが、入院先は、島田市民病院以外の医療機関も含まれます。

※将来推計人口に平成23年患者調査の静岡県の性・年齢階級別・傷病大分類別入院受療率（人口10万対）を乗じて算出（一般病床の平均在院日数は平成25年に対し10%短縮するものとして推計）

島田市の1日当たり傷病分類別将来推計入院患者数
平成27年(2015年)対平成42年(2030年)

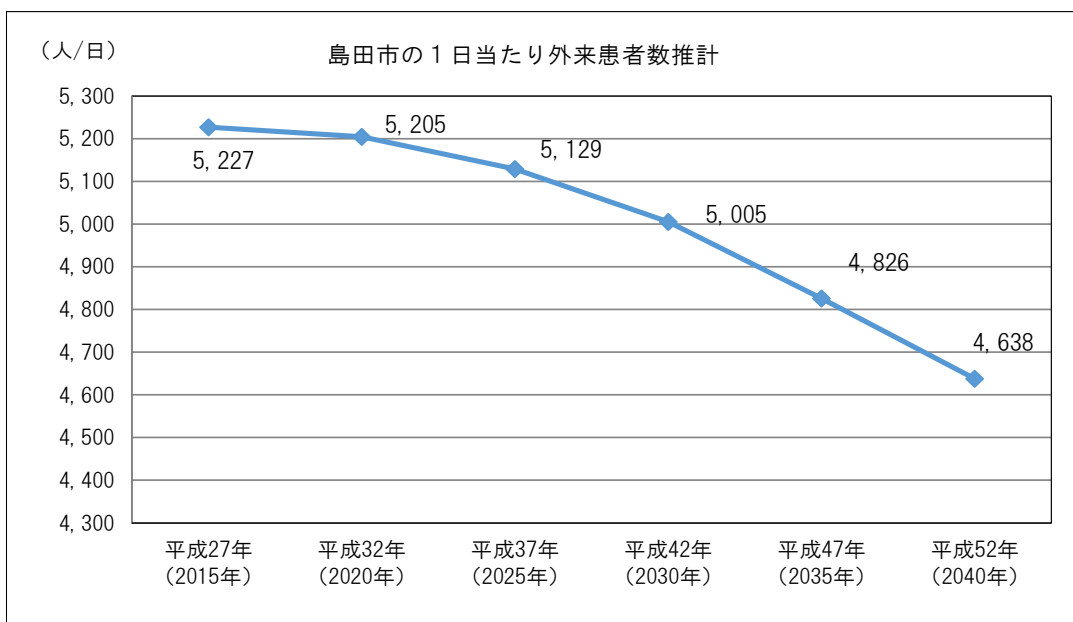
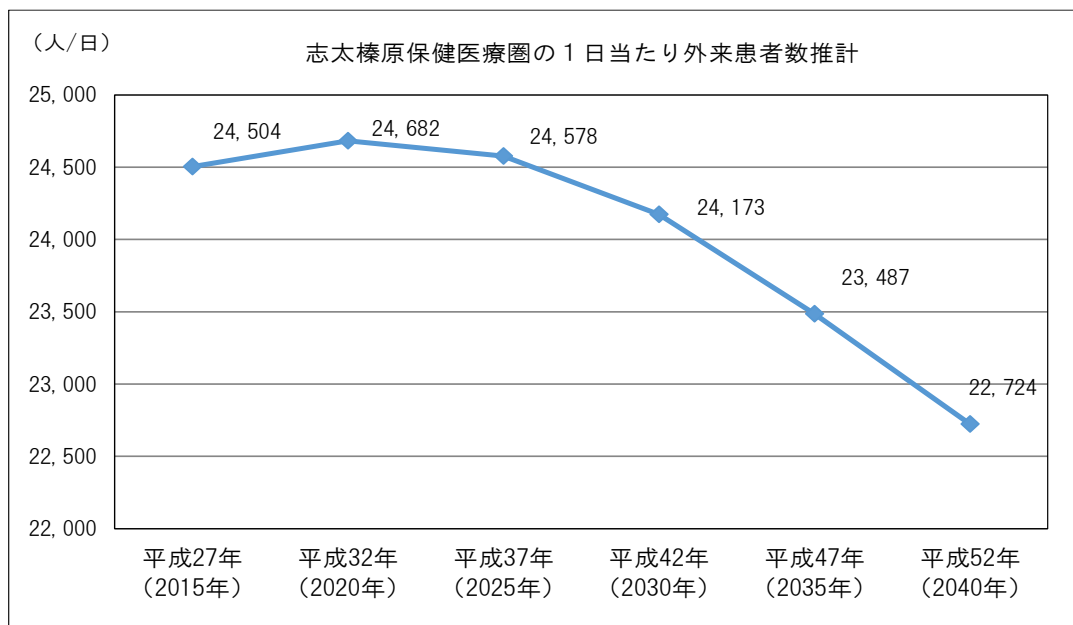
(人/日)



ウ 志太榛原保健医療圏及び島田市における外来患者の将来推計

志太榛原保健医療圏の1日当たりの外来患者数*は、平成32年の24,682人をピークに減少すると推計されます。

島田市の1日当たりの外来患者数*は、平成27年の5,227人から減少すると推計されます。平成27年と平成42年を傷病分類別に比べると、「循環器系」、「筋骨格系」は微増していますが、他は減少しています。



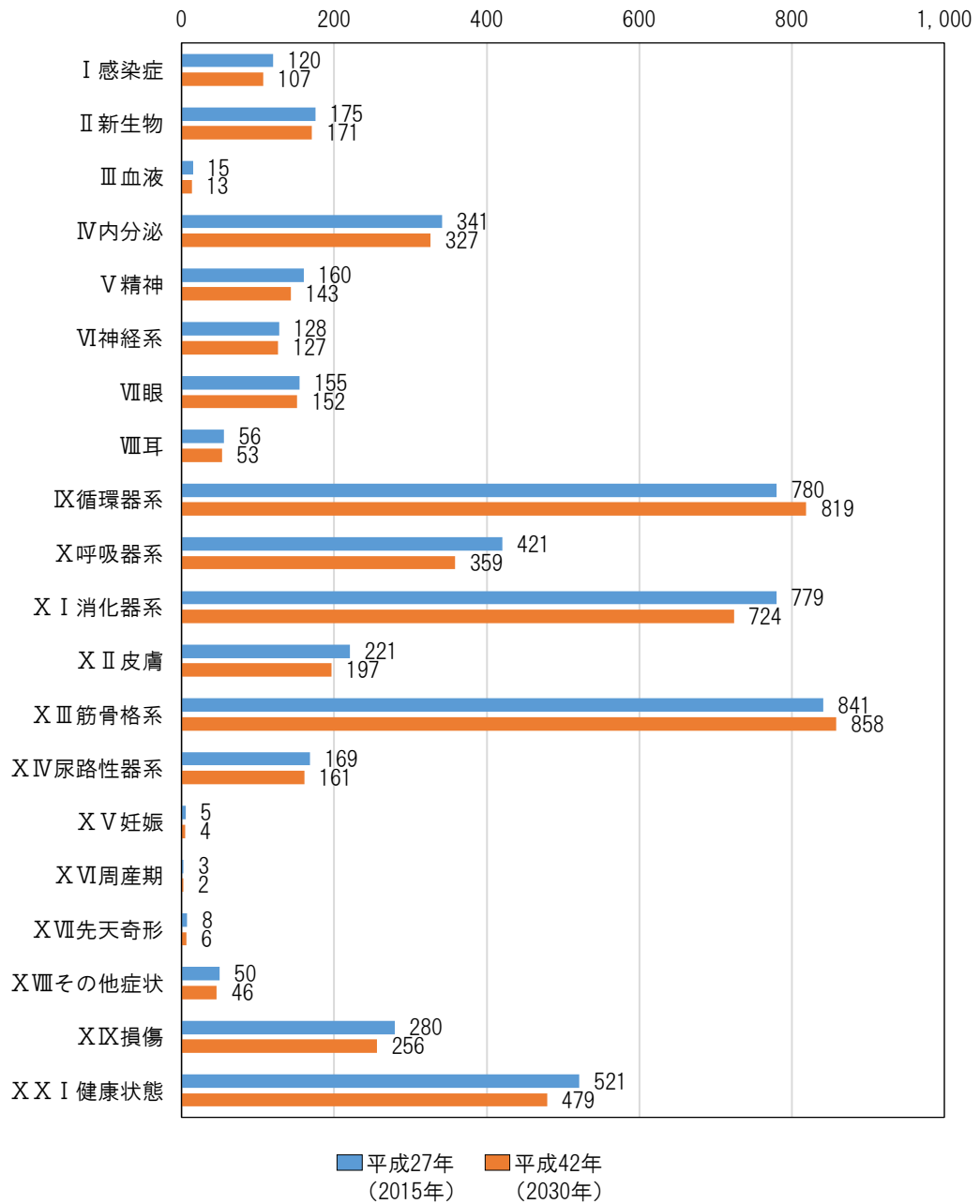
※「志太榛原保健医療圏の1日当たりの外来患者数」は、志太榛原保健医療圏に居住する人のうち1日当たりの外来患者の人数です。

※「島田市の1日当たりの外来患者数」は、島田市民のうち1日当たりの外来患者の人数ですが、受診先は、島田市民病院以外の医療機関を含みます。

※将来推計人口に平成23年患者調査の静岡県の性・年齢階級別・傷病大分類別外来受療率(人口10万対)を乗じて算出

島田市の1日当たり傷病分類別将来推計外来患者数
平成27年(2015年)対平成42年(2030年)

(人/日)



3 本院の状況

(1) 病院概要

所在地	静岡県島田市野田1200-5	
病床数	536床 内訳 一般：433床、回復リハ：34床、療養：35床、結核：8床、精神：20床※、感染症：6床 ※ 精神科病棟は平成19年4月から休止	
診療科目等	診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科、心療内科、漢方内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、精神科、血液内科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科、救急科、麻酔科及び歯科口腔外科 他に院内標榜科として、総合診療科、脳卒中科、輸血療法科、健康管理科
	特殊診療	人間ドック、CCU、人工透析
	受付時間	土、日曜・祝日及び12月29日～1月3日を除く毎日 午前7時30分～午前11時
	認定事項	一般病棟：7対1入院基本料 結核病棟：7対1入院基本料
学会認定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会認定医制度教育病院 ・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・ 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 ・ 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 ・ 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 ・ 日本胸部外科認定医認定制度指定の関連施設 ・ 呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設 ・ 日本消化器病学会教育関連施設 ・ 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・ 日本消化管学会胃腸科指導施設 ・ 日本消化器外科学会指定修練施設関連施設 ・ 日本消化器外科学会専門医修練施設 ・ 日本腎臓学会研修施設 ・ 日本透析医学会専門医制度認定施設 ・ 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 ・ 日本血液学会専門医研修施設 ・ 日本皮膚科学会認定専門医研修施設 ・ 日本核医学会専門医教育病院 ・ 日本人間ドック学会人間ドック専門医研修施設 ・ 日本東洋医学会研修施設 ・ 日本高血圧学会専門医認定施設 ・ 日本外科学会外科専門医制度修練施設 ・ 日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設 ・ 日本大腸肛門病学会関連施設 ・ 日本整形外科学会専門医制度研修施設 ・ 日本形成外科学会専門医制度教育関連施設 ・ 日本脳神経外科学会専門医認定制度研修施設 ・ 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 ・ 日本泌尿器科学会専門医教育施設 ・ 日本周産期・新生児医学会周産期新生児専門医暫定研修施設 ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設 ・ 日本麻酔科学会認定麻酔指導病院 ・ 日本口腔外科学会認定医制度研修機関 ・ 日本病理学会研修登録施設 ・ 日本病理学会研修認定施設 ・ 日本救急医学会救急科専門医指定病院 ・ 日本臨床細胞学会認定施設 ・ 日本臨床細胞学会教育研修施設 ・ 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設 ・ 日本静脈経腸栄養学会・NST稼働施設 ・ 日本栄養療法推進協議会・NST稼働施設 ・ 日本静脈経腸栄養学会・栄養サポートチーム専門療法士実地修練施設 ・ 認定臨床微生物検査技師制度研修施設 ・ 地域包括医療・ケア認定施設 ・ マンモグラフィ検診施設画像認定施設 	
各種指定・認定等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険医療機関 ・ 国民健康保険療養費取扱機関 ・ 労災保険指定病院 ・ 母体保護法指定医 ・ 厚生労働省臨床研修指定病院 ・ 身体障害者福祉法指定医 ・ 生活保護法指定医療機関 ・ 結核予防法指定病院 ・ 養育医療指定病院 ・ 外国医師臨床修練指定病院 ・ 被爆者一般疾病医療機関 ・ 静岡県指定自立支援医療機関 ・ 第二種感染症指定医療機関 ・ 救急告示病院 ・ 静岡県覚せい剤施用機関 ・ 静岡県指定地域肝炎疾患診療連携拠点病院 ・ エイズ診療拠点病院 ・ 災害拠点病院 ・ 地域医療支援病院 ・ 小児慢性特定疾患治療取扱病院 ・ 静岡県指定地域がん診療連携推進病院 ・ 人間ドック健診施設機能評価認定 ・ 優良人間ドック健診施設指定 	

出典：市立島田市民病院「市立島田市民病院年報 平成25年度」

(2) 敷地概要

現病院敷地の概要は次のとおりです。

・所在地	静岡県島田市野田1200番地の5	
・用途地域	第一種中高層住居専用地域	準住居地域
・建ぺい率	60%	60%
・容積率	150%	200%
・道路高さ制限	1.25×L1（適用距離20m）	
・隣地高さ制限	1.25×L2+20m	
・日影規制	3時間・2時間	4時間・2.5時間
・その他区域・地区等の指定	なし	

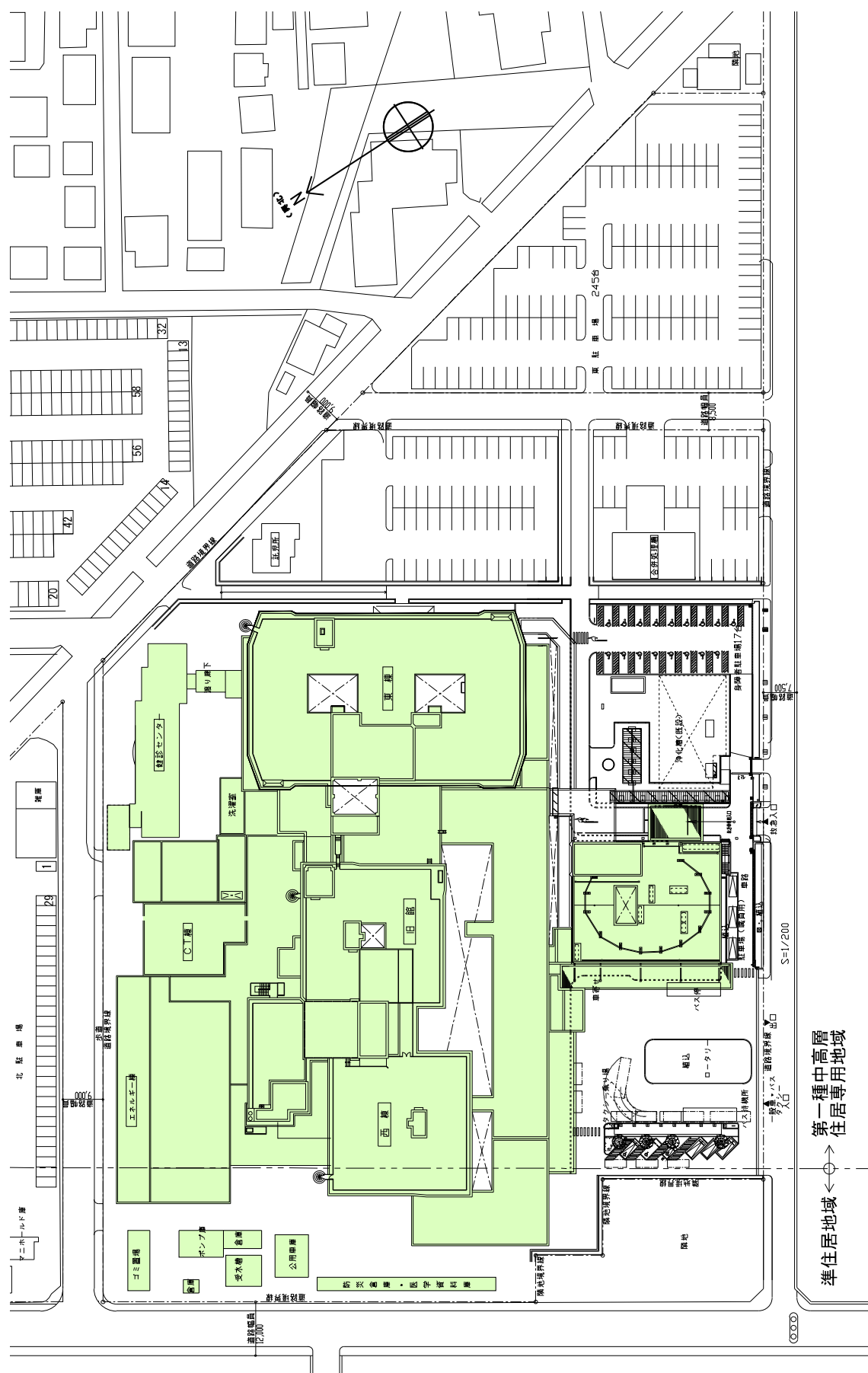
L1：前面道路の反対側の境界線までの水平距離

L2：隣地境界線までの水平距離

(3) 建物概要

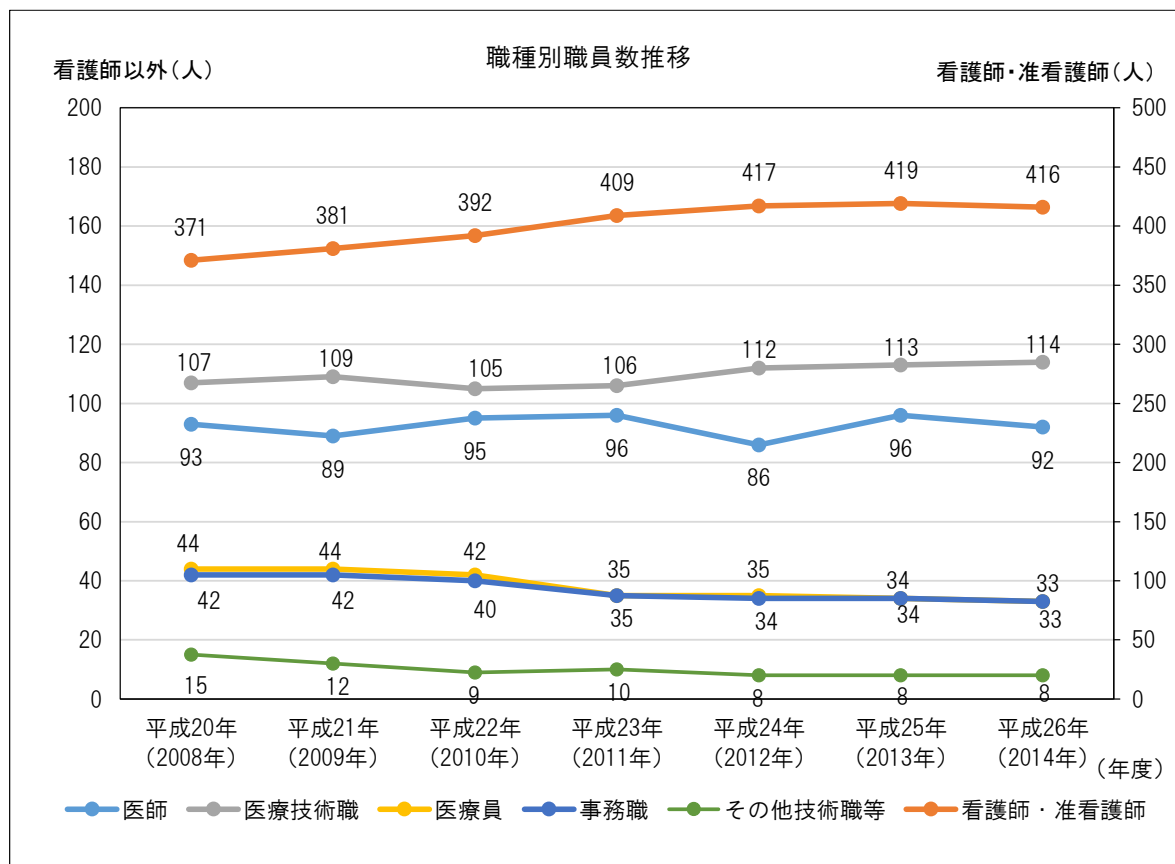
◇病院施設			◇附属施設			
病院 (昭和53年竣工) ※東館増築 (昭和63年竣工)	敷地面積	45,583.43㎡	院内保育所	延べ床面積	231.32㎡	
	延べ床面積	34,999.29㎡		構造	鉄骨造（一部木造） 平屋建	
	構造	鉄筋コンクリート造 地上5階		医師住宅	59戸（研修医宿舎を含む）	
		塔屋2階建				
	病院の 延べ床面積	31,721.10㎡		看護専門学校	敷地面積	5,291.04㎡ (テニスコートを含む)
	本館	18,119.34㎡			延べ床面積	3,023.2㎡
東館	13,601.76㎡		構造		鉄筋コンクリート造 地上3階建	
併設施設						
健診センター (平成12年竣工)	延べ床面積	1,225.97㎡				
	構造	鉄骨造地上3階建				
救急センター (平成17年竣工)	延べ床面積	2,052.22㎡				
	構造	鉄骨造地上3階建				
駐車場	913台					

(4) 現病院配置図



(5) 職員数の動向

本院の職員数は平成20年度以降平成25年度まで増加してきましたが、平成26年度は若干減少しています。増加の主たる要因は看護師数の増加によるものです。医師数は増減がみられ、特に平成24年度は前年度に比べ10人減少しています。



職種別職員数推移

単位：人

区分		平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)
医師	医師・歯科医師	93	89	95	96	86	96	92
	(研修医) *内書き	(29)	(22)	(23)	(20)	(21)	(31)	(26)
看護師	看護師	364	373	385	403	411	416	413
	准看護師	7	8	7	6	6	3	3
医師看護師 計		464	470	487	505	503	515	508
医療技術職	薬剤師	20	20	19	19	21	22	23
	診療放射線技師	24	24	24	24	24	24	24
	臨床検査技師	29	29	27	27	28	27	27
	理学療法士	8	9	9	8	9	10	11
	作業療法士	6	6	6	6	6	6	6
	言語聴覚士	2	3	3	4	4	4	3
	臨床工学技士	5	5	5	5	6	6	6
	視能訓練士	3	3	2	3	3	3	3
	歯科衛生士	2	2	2	2	2	2	2
	臨床心理技師	1	1	1	1	1	1	1
	マッサージ師	1	1	1	1	1	1	1
栄養士	6	6	6	6	7	7	7	
医療技術員 計		107	109	105	106	112	113	114
事務職		42	42	40	35	34	34	33
医療員		44	44	42	35	35	34	33
その他技術職等	診療録管理士	3	3	2	2	2	2	1
	介護福祉士	4	2	1	1	0	0	0
	その他技師	8	7	6	7	6	6	7
その他職員 計		15	12	9	10	8	8	8
合計		672	677	683	691	692	704	696

出典：市立島田市民病院調べ

医師数は、診療科により増減がみられます。平成24年度は、眼科は医師が在籍しない状況、また呼吸器内科は6名が3名に減少という状況となりました。

診療科別医師数推移

単位：人

科名	平成20年度 (2008年)	平成21年度 (2009年)	平成22年度 (2010年)	平成23年度 (2011年)	平成24年度 (2012年)	平成25年度 (2013年)	平成26年度 (2014年)
総合診療科	19 (16)	19 (16)	17 (14)	16 (14)	16 (14)	20 (18)	18 (16)
呼吸器内科	10 (3)	7	9 (2)	6	3	2	4 (2)
循環器内科	10 (2)	7 (1)	7 (1)	10 (1)	9 (1)	8 (1)	7
消化器内科	5	3	4	5	6 (1)	6 (2)	6
糖尿病・内分泌内科	0	3 (2)	3 (1)	4 (2)	4 (1)	4 (2)	4 (1)
血液内科	2 (1)	1	1	1	0	1	1
腎臓内科	1	2	2	3	2	1	3 (1)
漢方内科	0	1	1	1	0	1	1
緩和ケア内科	1	1	1	1	0	0	0
小児科	4 (1)	3	4 (1)	3	3	3	3
皮膚科	1	1	0	2	2 (1)	2	3 (1)
健康管理科	1	1	1	1	1	0	0
放射線科	0	0	2	3	3	3	2
化学療法室	0	0	0	0	1	1	1
外科	8 (1)	8 (1)	8 (1)	7 (1)	5 (1)	7 (1)	7 (1)
整形外科	7	7	8 (1)	8	7	8 (2)	6 (1)
形成外科	2 (1)	2	2	2	3 (1)	3 (1)	2
脳神経外科	5 (1)	5	3	3	3	4 (1)	3
呼吸器外科	0	4 (1)	3	3	2	3	3
泌尿器科	3	3	3	3	4 (1)	4 (1)	4
産婦人科	2 (1)	1	1	1	1	1	1
眼科	2 (1)	2	3	3 (1)	0	2 (1)	2 (1)
耳鼻咽喉科	2	0	0	0	0	1	1
麻酔科	4 (1)	4 (1)	6 (2)	6 (1)	5	5	4 (1)
歯科口腔外科	2	1	1	1	2	2	2
病理診断科	0	1	1	1	2	2 (1)	2 (1)
リハビリテーション科	1	1	1	1	1	1	1
救急科	0	1	1	1	1	1	1
臨床検査科	1	0	0	0	0	0	0
計	93 (29)	89 (22)	93 (23)	96 (20)	86 (21)	96 (31)	92 (26)

※：医師数（）内の数字は研修医（卒後1～5年目の医師）数再掲
 出典：島田市民病院調べ（各年度3月31日現在）

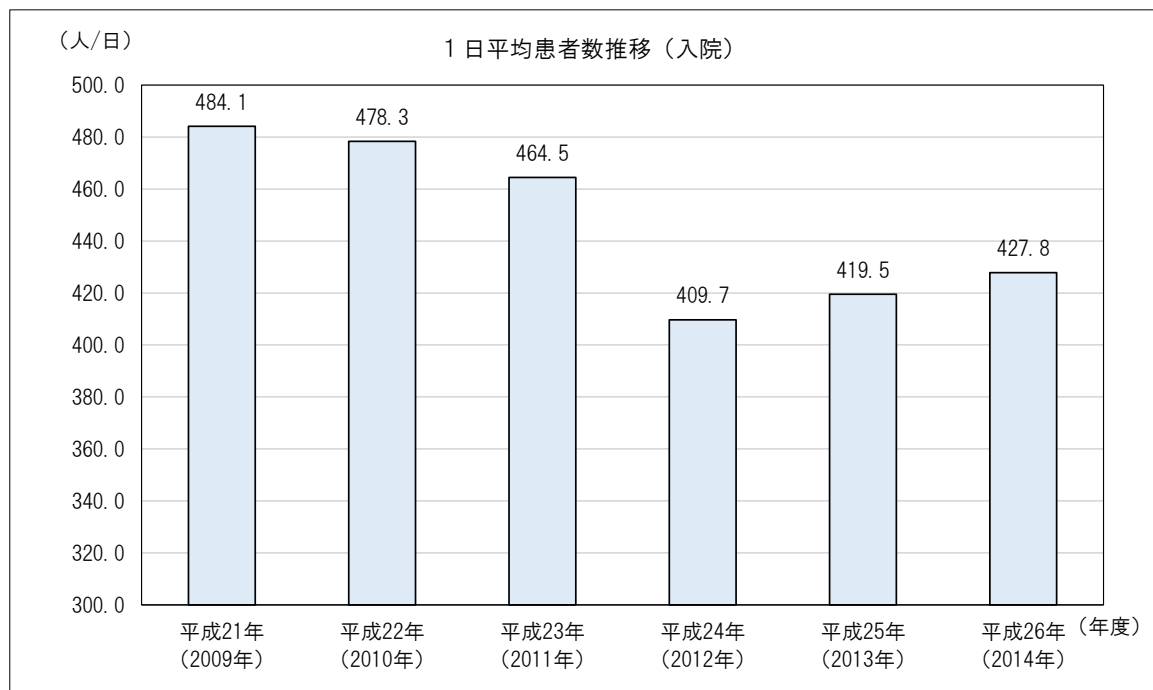
(6) 患者動向

ア 入院患者

(ア) 患者数

1日平均入院患者数は平成20年度以降増減がみられ、平成24年度は410人まで減少しましたが、以降は増加傾向を示し、平成26年度は428人となっています。

診療科別にみると、平成24年度は医師が不在となった眼科及び医師が減少した呼吸器内科・呼吸器外科の減少が大きくなっています。



診療科別患者数推移 (入院)

単位：人

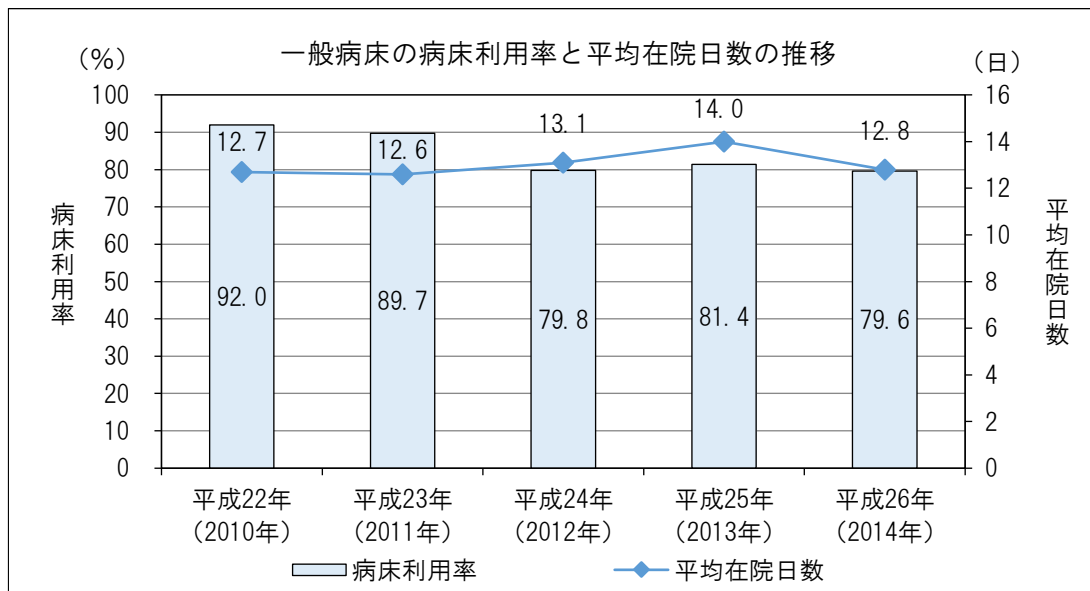
区分	平成21年度 (2009年)		平成22年度 (2010年)		平成23年度 (2011年)		平成24年度 (2012年)		平成25年度 (2013年)		平成26年度 (2014年)	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均
血液内科	7,541	20.7	6,693	18.3	8,366	22.9	6,220	17.0	6,247	17.1	6,111	16.7
糖尿病・内分泌内科	5,422	14.9	5,605	15.4	7,029	19.2	6,708	18.4	5,463	15.0	5,227	14.3
輸血療法科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
神経内科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
透析	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
心療内科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
消化器内科	17,532	48.0	15,748	43.1	17,938	49.0	19,997	54.8	21,411	58.7	20,910	57.3
循環器内科	18,190	49.8	14,824	40.6	16,597	45.3	15,735	43.1	15,826	43.4	15,968	43.8
小児科	6,704	18.4	6,996	19.2	5,629	15.4	5,155	14.1	3,950	10.8	3,698	10.1
外科	13,885	38.0	12,856	35.2	14,707	40.2	11,530	31.6	13,090	35.9	14,029	38.4
整形外科	25,897	70.9	28,782	78.9	25,774	70.4	25,116	68.8	25,573	70.1	26,465	72.5
形成外科	1,811	5.0	1,559	4.3	1,712	4.7	1,625	4.5	1,312	3.6	1,707	4.7
脳神経外科	4,952	13.6	6,331	17.3	4,686	12.8	3,995	10.9	4,646	12.7	4,408	12.1
皮膚科	165	0.4	281	0.8	2,179	6.0	1,893	5.2	1,625	4.5	1,802	4.9
泌尿器科	5,306	14.5	4,993	13.7	4,812	13.1	4,683	12.8	5,988	16.4	5,596	15.3
産婦人科	3,637	10.0	3,323	9.1	2,539	6.9	2,387	6.5	2,227	6.1	2,207	6.1
眼科	3,183	8.7	4,263	11.7	3,267	8.9	2,395	6.6	2,642	7.2	3,287	9.0
耳鼻いんこう科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1,304	3.6	1,962	5.4
呼吸器内科・呼吸器外科	39,917	109.4	40,176	110.1	31,689	86.6	20,619	56.5	18,508	50.7	19,795	54.2
精神科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
放射線科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
歯科口腔外科	1,414	3.9	1,183	3.2	955	2.6	1,087	3.0	1,323	3.6	1,104	3.0
健康管理科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
腎臓内科	4,667	12.8	6,237	17.1	6,930	18.9	5,895	16.2	6,390	17.5	7,637	20.9
緩和ケア内科	226	0.6	548	1.5	585	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
リハビリ科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
内科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
脳卒中科	15,809	43.3	13,766	37.7	14,147	38.7	14,161	38.8	15,256	41.8	13,889	38.1
漢方内科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
救急科	432	1.2	419	1.1	470	1.3	330	0.9	338	0.9	352	1.0
合計	176,690	484.1	174,583	478.3	170,011	464.5	149,531	409.7	153,119	419.5	156,154	427.8

出典：市立島田市民病院調べ

(イ) 病床利用率及び平均在院日数の推移

一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く。）の平均在院日数は平成25年度の14.0日を除き12日後半から13日前半で推移しています。

病床利用率は平成22年度、23年度は90%前後でしたが、平成24年度以降は80%前後で推移しています。



病床利用率の推移

単位：%

年度	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)
一般病床等	92.0	89.7	79.8	81.4	79.6
結核病床	0.0	0.0	0.0	0.0	17.0
療養病床	100.5	96.1	81.9	81.3	78.6
回復期リハビリテーション病床	94.3	88.5	71.5	80.3	80.6
精神病床 (平成19年4月より休止)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
全体 (精神病床除く)	92.7	90.3	79.4	81.5	77.7

平均在院日数の推移

単位：日

年度	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)
一般病床	12.7	12.6	13.1	14.0	12.8
結核病床	66.0	77.2	222.3	93.4	55.2
療養病床 (医療)	51.7	47.1	49.1	53.8	42.5
回復期リハビリテーション病床	36.0	37.4	35.9	40.0	43.3
精神病床 (平成19年4月より休止)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
全体 (精神病床除く)	15.1	14.9	15.2	16.3	14.9

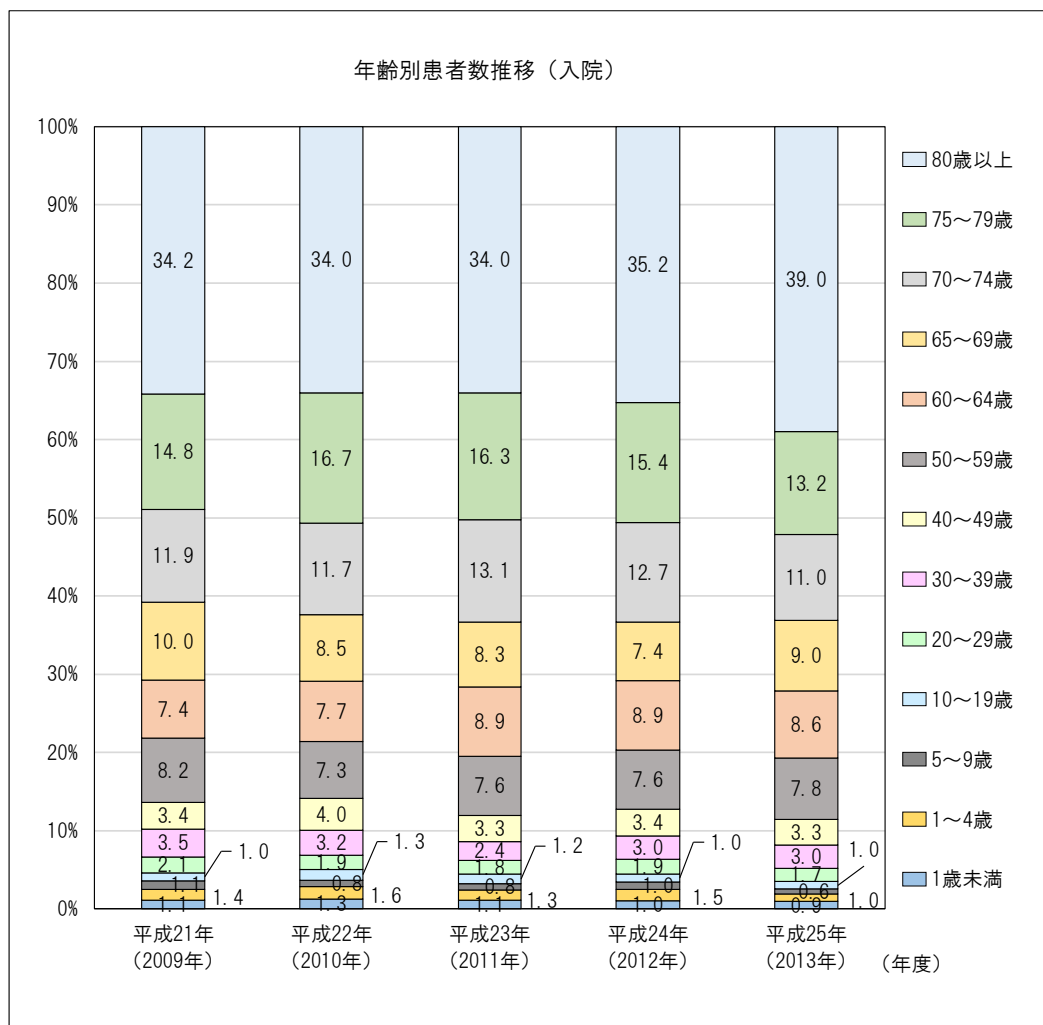
出典：市立島田市民病院調べ

(ウ) 在宅復帰率

平成26年度の本院の在宅復帰率は97.1%で、退院先のほとんどは「自宅」となっています。今後は高齢者のみの世帯も増え、自宅への退院が困難となる可能性があり、退院患者の療養環境を充実させていくためにも、医療・介護の連携を中心とし、国が描いた在宅支援のシステム（地域包括ケアシステム）の実現が急務となります。

(エ) 年齢別患者数推移

平成21年度から25年度の入院患者数の年齢別構成の推移をみると、23年度以降80歳以上の割合が増加しています。平成25年度の年齢別割合は、「80歳以上」が39.0%、「75～79歳」が13.2%、「70～74歳」が11.0%、「65歳～69歳」が9.0%で65歳以上の割合が約72%となっています。



年齢別患者数推移 (入院)

単位：人、%

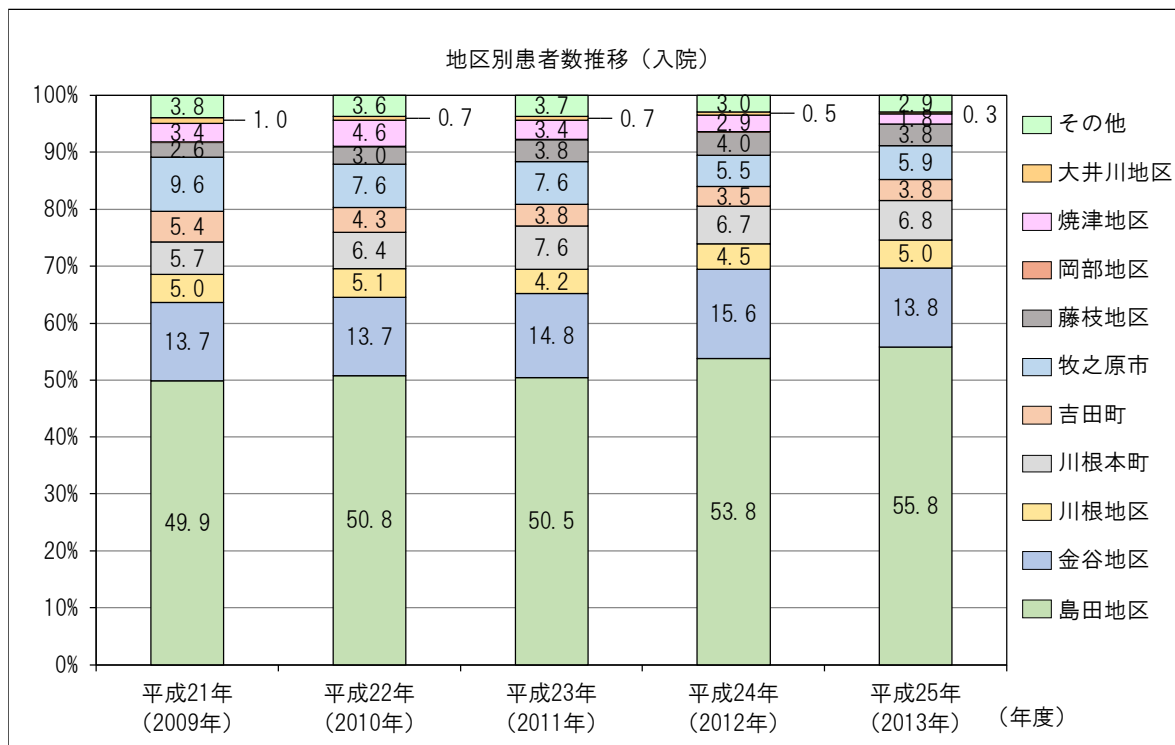
年齢階級	平成21年度 (2009年)		平成22年度 (2010年)		平成23年度 (2011年)		平成24年度 (2012年)		平成25年度 (2013年)	
	1日平均	構成比	1日平均	構成比	1日平均	構成比	1日平均	構成比	1日平均	構成比
1歳未満	5.5	1.1	6.0	1.3	5.1	1.1	4.0	1.0	3.9	0.9
1～4歳	6.5	1.3	7.5	1.6	6.2	1.3	6.1	1.5	4.0	1.0
5～9歳	5.2	1.1	4.0	0.8	3.5	0.8	3.9	1.0	2.7	0.6
10～19歳	4.9	1.0	6.3	1.3	5.6	1.2	4.1	1.0	4.0	1.0
20～29歳	10.1	2.1	8.9	1.9	8.2	1.8	7.9	1.9	6.9	1.6
30～39歳	17.0	3.5	15.4	3.2	11.3	2.4	12.2	3.0	12.6	3.0
40～49歳	16.7	3.4	19.2	4.0	15.5	3.3	13.9	3.4	13.8	3.3
50～59歳	39.6	8.2	34.8	7.3	35.1	7.6	31.2	7.6	32.7	7.8
60～64歳	36.0	7.4	36.9	7.7	41.4	8.9	36.3	8.9	36.2	8.6
65～69歳	48.2	10.0	40.6	8.5	38.4	8.3	30.5	7.4	37.8	9.0
70～74歳	57.5	11.9	56.2	11.7	60.7	13.1	52.2	12.7	46.1	11.0
75～79歳	71.6	14.8	79.7	16.7	75.6	16.3	63.0	15.4	55.2	13.2
80歳以上	165.3	34.1	162.8	34.0	157.9	34.0	144.4	35.2	163.6	39.0
計	484.1	100.0	478.3	100.0	464.5	100.0	409.7	100.0	419.5	100.0

出典：市立島田市民病院調べ

(オ) 地区別患者数推移

平成21年度から25年度の入院患者数の地区別構成の推移をみると、24年度以降から島田市島田地区の患者数割合が増加傾向にあります。

平成25年度は、島市内が約75%となっており、地区別では、「島田市島田地区」が最も多く約56%となっています。



地区別患者数推移 (入院)

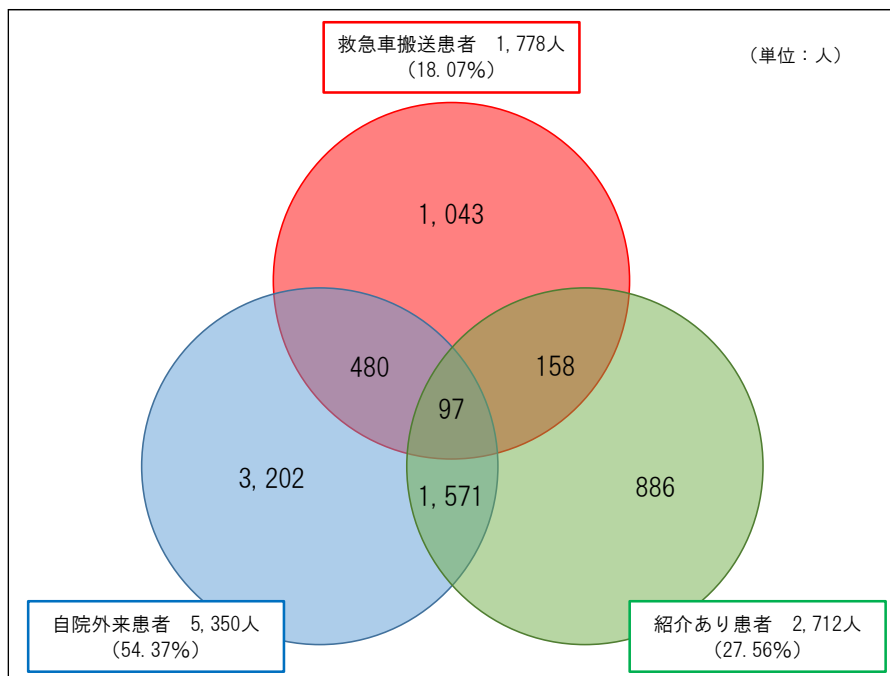
単位：人、%

区分		平成21年度 (2009年)		平成22年度 (2010年)		平成23年度 (2011年)		平成24年度 (2012年)		平成25年度 (2013年)	
		1日平均	割合	1日平均	割合	1日平均	割合	1日平均	割合	1日平均	割合
島田市	島田地区	241.4	49.9	242.9	50.8	234.4	50.5	220.3	53.8	234.2	55.8
島田市	金谷地区	66.3	13.7	65.5	13.7	68.7	14.8	64.1	15.6	58.0	13.8
島田市	川根地区	24.0	5.0	24.6	5.1	19.5	4.2	18.3	4.5	21.0	5.0
川根本町		27.6	5.7	30.4	6.4	35.2	7.6	27.3	6.7	28.7	6.8
吉田町		25.9	5.4	20.7	4.3	17.6	3.8	14.3	3.5	15.8	3.8
牧之原市		46.3	9.6	36.2	7.6	35.1	7.6	22.6	5.5	24.6	5.9
藤枝市	藤枝地区	12.7	2.6	14.5	3.0	17.6	3.8	16.2	4.0	16.0	3.8
藤枝市	岡部地区	0.1	0.0	0.9	0.2	0.4	0.1	0.7	0.2	0.3	0.1
焼津市	焼津地区	16.3	3.4	21.9	4.6	15.7	3.4	11.9	2.9	7.4	1.8
焼津市	大井川地区	4.9	1.0	3.3	0.7	3.2	0.7	1.9	0.5	1.3	0.3
その他	その他	18.6	3.8	17.4	3.6	17.1	3.7	12.1	3.0	12.2	2.9
合計		484.1	100.0	478.3	100.0	464.5	100.0	409.7	100.0	419.5	100.0

出典：市立島田市民病院調べ

(カ) 入院経路

平成25年4月1日～平成26年3月31日の間に入院し退院した患者8,870人のうち入院経路の判明した7,437人について分析すると、自院外来患者が5,350人(54.37%)と最も多く、救急車搬送患者は1,778人で18.07%、紹介患者は2,712人(救急車搬送、自院外来患者も含む)で27.56%となっています。



入院経路別患者数 単位：人

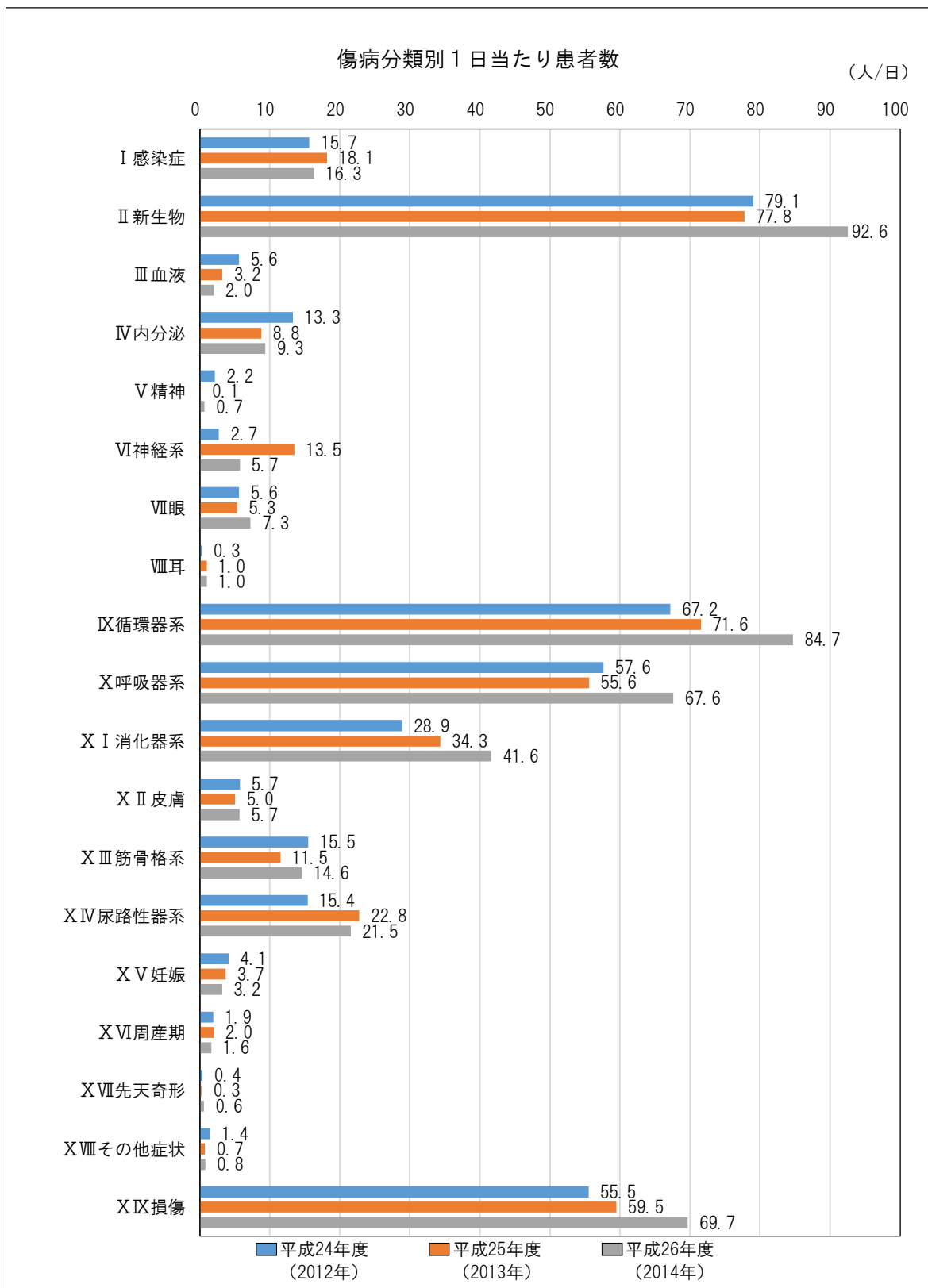
入院情報	患者数	割合
1 救急車による搬送患者	1,043	14.02%
2 他院よりの紹介のある患者	886	11.91%
3 自院外来からの入院患者	3,202	43.05%
4 救急車による搬送患者かつ他院よりの紹介のある患者	158	2.12%
5 自院外来からの入院患者かつ救急車による搬送患者	480	6.45%
6 他院よりの紹介のある患者かつ自院外来からの入院患者	1,571	21.12%
7 救急車による搬送患者かつ他院よりの紹介のある患者かつ自院外来からの入院患者	97	1.30%
計	7,437	100%
その他経路不明	1,433	
総計	8,870	

出典：市立島田市民病院調べ

(平成25年4月～26年3月中に入院し退院した患者数)

(キ) 傷病分類別患者構成

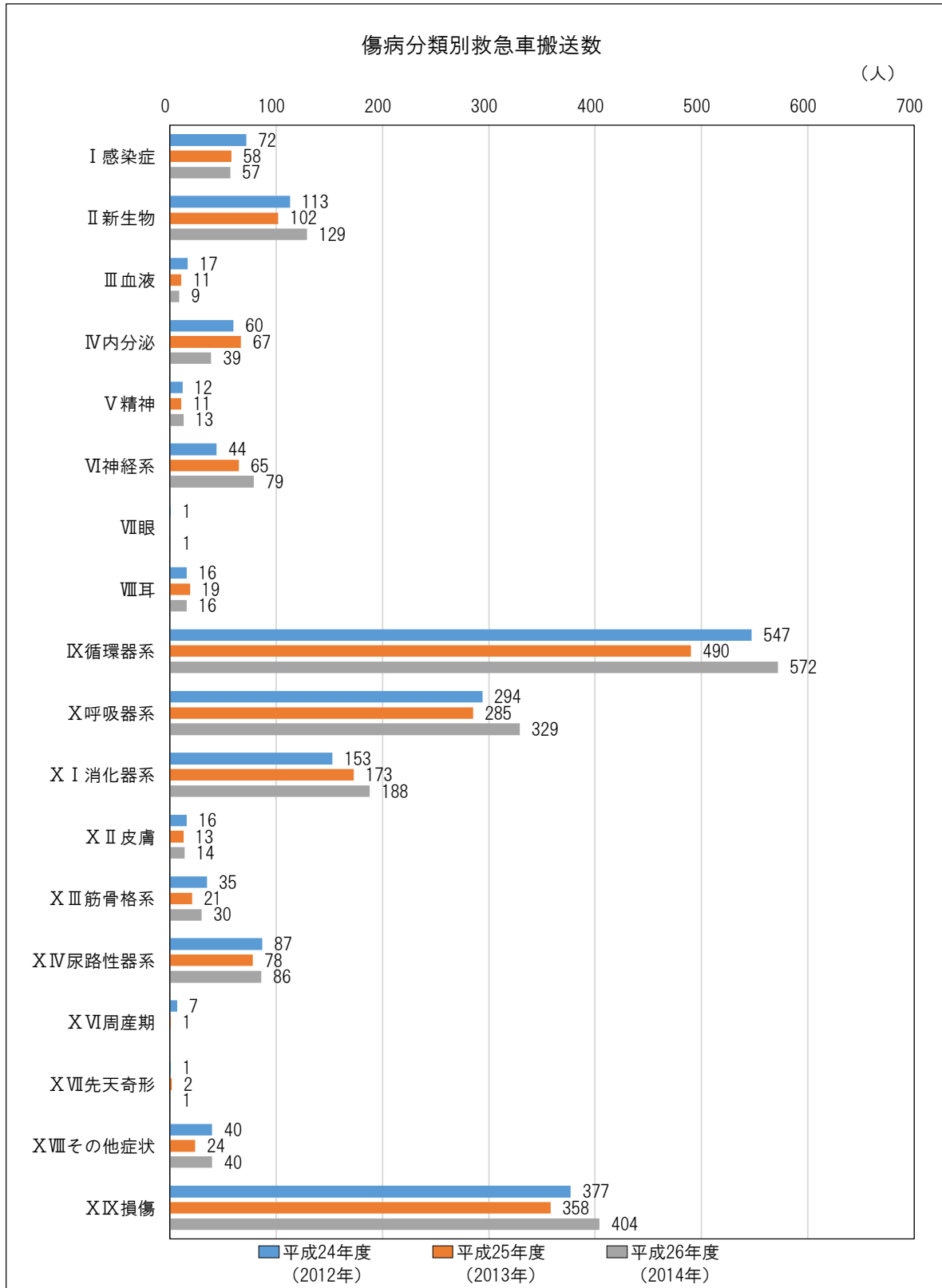
平成24年度から平成26年度の1日当たり患者数の推移をみると、「新生物」、「循環器」、「呼吸器系」、「消化器系」、「損傷」などが増加しています。これは、島田市の将来推計患者と同様の傾向にあります。



出典：市立島田市民病院調べ

(ク) 傷病分類別救急車搬送数

平成24年度から平成26年度の本院に救急搬送される患者の疾病分類別内訳の推移をみると、「新生物」、「神経系」、「循環器系」、「呼吸器系」、「消化器系」、「損傷」などが増加しています。

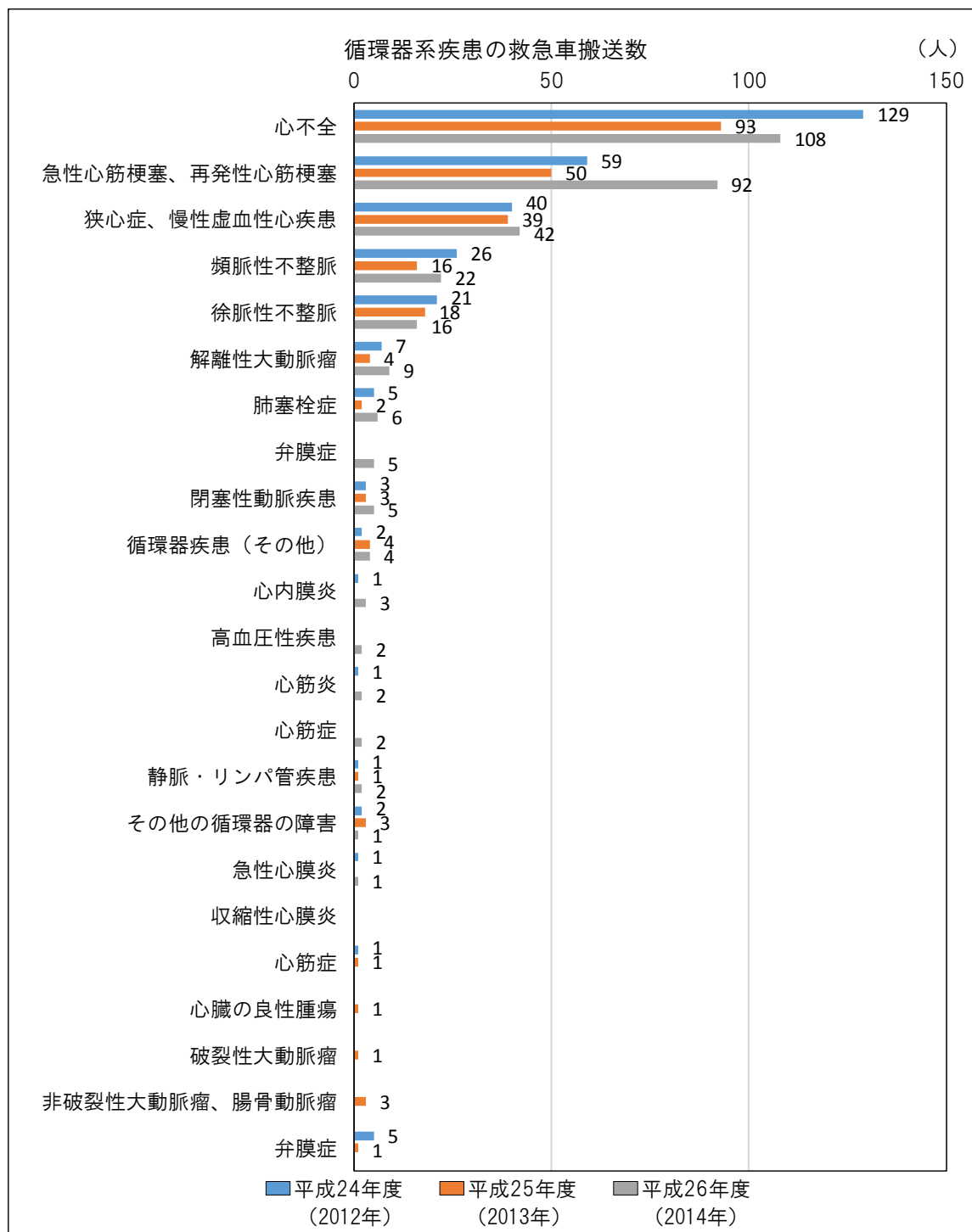


出典：市立島田市民病院調べ

(ケ) 循環器系疾患の救急車搬送数

平成24年度からの循環器系疾患の救急搬送される患者の疾病分類別内訳をみると、平成26年度には「急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞」が増加しています。

循環器系疾患全体をみると全入院患者数の34.5%が救急車搬送となっており、特に「急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞」は約73%が救急車搬送となっています。



出典：市立島田市民病院調べ

循環器系疾患の救急車搬送数

単位：人

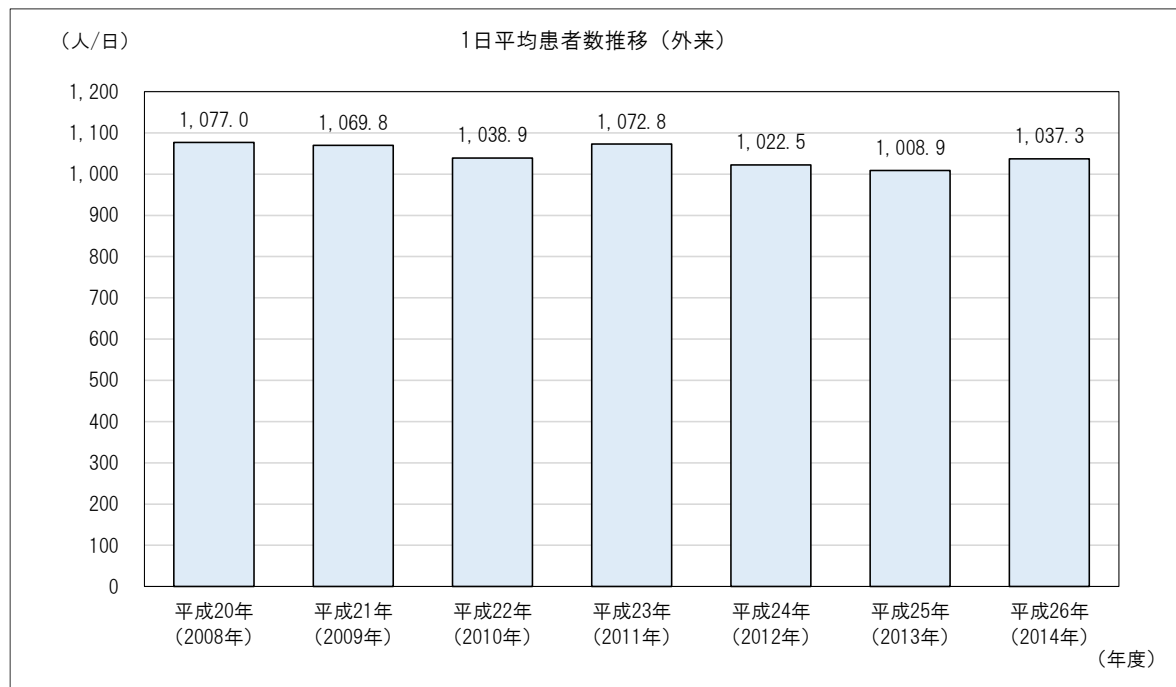
疾患	平成24年度 (2012年)		平成25年度 (2013年)		平成26年度 (2014年)		
	搬送者 数	患者数	搬送者 数	患者数	搬送者 数	患者数	搬送者 割合
心不全	129	336	93	261	108	272	39.7%
急性心筋梗塞（続発性合併症を含む） 再発性心筋梗塞	59	87	50	79	92	126	73.0%
狭心症、慢性虚血性心疾患	40	357	39	311	42	306	13.7%
頻脈性不整脈	26	74	16	65	22	65	33.8%
徐脈性不整脈	21	56	18	55	16	51	31.4%
解離性大動脈瘤	7	12	4	9	9	14	64.3%
肺塞栓症	5	9	2	5	6	9	66.7%
弁膜症（連合弁膜症を含む）					5	17	29.4%
閉塞性動脈疾患	3	27	3	33	5	25	20.0%
循環器疾患（その他）	2	7	4	10	4	8	50.0%
心内膜炎	1	2		4	3	6	50.0%
高血圧性疾患		1			2	4	50.0%
心筋炎	1	1			2	4	50.0%
心筋症（拡張型心筋症を含む）					2	7	28.6%
静脈・リンパ管疾患	1	8	1	9	2	12	16.7%
その他の循環器の障害	2	3	3	5	1	3	33.3%
急性心膜炎	1	2		2	1	5	20.0%
収縮性心膜炎						1	0.0%
心筋症	1	3	1	1			0.0%
心臓の良性腫瘍			1	1		1	0.0%
破裂性大動脈瘤			1	1			0.0%
非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤		7	3	5			0.0%
弁膜症	5	16	1	19			0.0%
小計	304	1,008	240	875	323	937	34.5%

出典：市立島田市民病院調べ

イ 外来患者

(ア) 患者数推移 (外来)

平成20年度以降の1日平均外来患者数は、1,000人～1,080人前後で増減しています。平成24年度は前年度と比べ約50人減少しており、医師の減少等のあった眼科、呼吸器内科・呼吸器外科で減少しています。



診療科別患者数 (外来)

単位：人、%

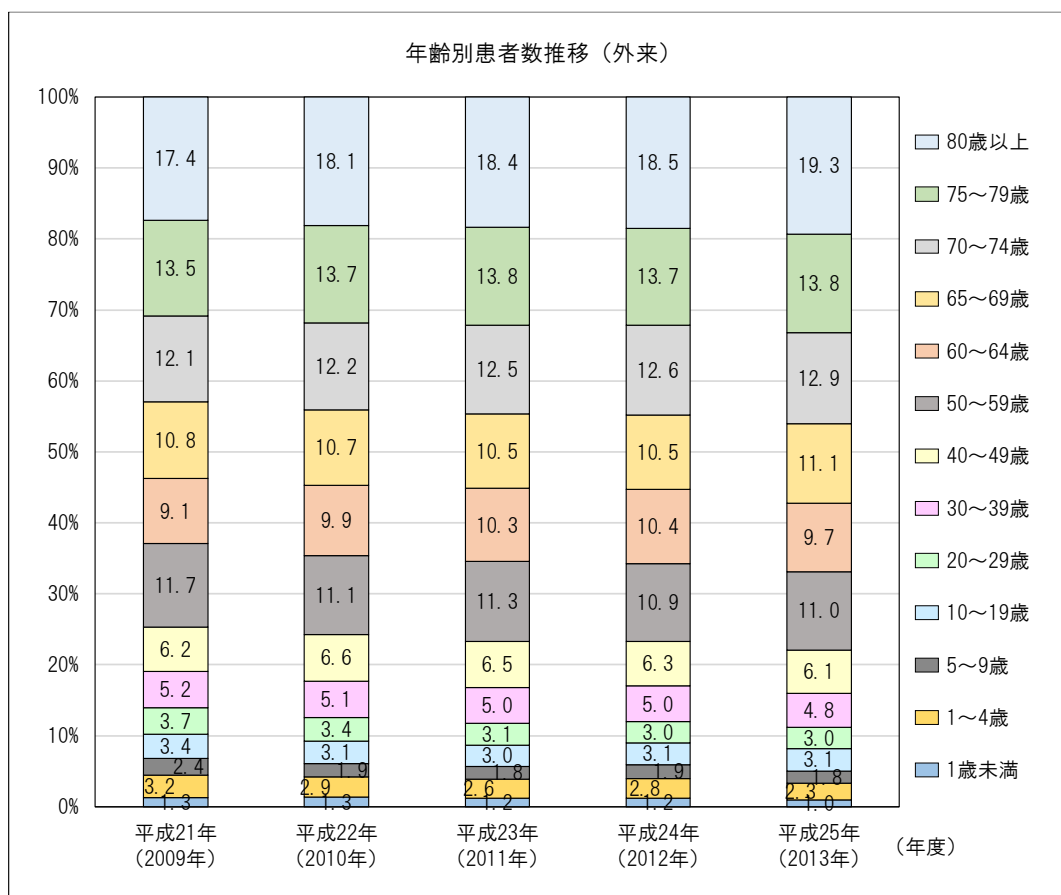
区分	平成20年度 (2008年)		平成21年度 (2009年)		平成22年度 (2010年)		平成23年度 (2011年)		平成24年度 (2012年)		平成25年度 (2013年)		平成26年度 (2014年)	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均
総合診療科	2,705	11.1	2,777	11.5	2,560	10.5	2,142	8.8	2,137	8.7	2,168	8.9	2,385	9.8
血液内科	7,821	32.4	8,364	34.6	9,376	38.6	10,571	43.3	9,254	37.8	7,393	30.3	5,747	23.6
糖尿病・内分泌内科	3,941	16.2	9,702	40.1	12,194	50.2	14,047	57.6	14,008	57.2	12,943	53.1	12,430	50.9
輸血療法科	133	0.5	206	0.9	206	0.9	236	1.0	67	0.3	0	0.0	0	0.0
神経内科	1,907	7.8	1,719	7.1	1,634	6.7	1,628	6.7	1,558	6.4	1,472	6.0	1,433	5.9
透析	6,337	26.1	5,640	23.3	5,466	22.5	8,199	33.6	10,177	41.5	10,858	44.5	11,252	46.1
心療内科	1,463	6.0	1,255	5.2	1,269	5.2	1,158	4.7	1,145	4.7	880	3.6	789	3.2
消化器内科	31,000	127.6	25,763	106.5	19,273	79.3	23,062	94.5	24,528	100.1	25,518	104.6	26,101	107.0
循環器内科	28,147	115.8	28,912	119.5	30,285	124.6	31,306	128.3	30,838	125.9	30,845	126.4	30,481	124.9
小児科	16,983	69.9	15,986	66.1	14,192	58.4	14,111	57.8	13,891	56.7	11,319	46.4	12,721	52.1
外科	14,748	60.7	14,985	61.9	15,117	62.2	16,515	67.7	12,454	50.8	11,973	49.1	12,376	50.7
整形外科	27,201	111.9	25,254	104.4	21,648	89.1	22,276	91.3	22,152	90.4	22,393	91.8	21,659	88.8
形成外科	6,014	24.7	5,936	24.5	5,892	24.3	5,695	23.3	5,873	24.0	5,694	23.3	5,879	24.1
脳神経外科	8,096	33.3	9,227	38.1	9,363	38.5	7,060	28.9	6,015	24.5	6,041	24.8	5,351	21.9
皮膚科	7,656	31.5	8,987	37.1	10,184	41.9	13,101	53.7	16,846	68.8	19,019	78.0	20,816	85.3
泌尿器科	13,410	55.2	13,100	54.1	13,205	54.3	13,947	57.2	14,779	60.3	14,318	58.7	14,170	58.1
産婦人科	7,591	31.2	6,893	28.5	6,590	27.1	6,206	25.4	5,985	24.4	5,803	23.8	6,012	24.6
眼科	18,309	75.3	17,654	73.0	15,878	65.4	14,544	59.6	9,611	39.2	9,526	39.0	13,667	56.0
耳鼻いんこう科	9,233	38.0	1,004	4.1	1,213	5.0	1,066	4.4	831	3.4	3,072	12.6	4,613	18.9
呼吸器内科・呼吸器外科	21,692	89.3	26,116	107.9	27,634	113.7	26,394	108.2	19,887	81.2	15,492	63.5	15,149	62.1
精神科	36	0.1	34	0.1	30	0.1	24	0.1	15	0.1	19	0.1	20	0.1
放射線科	2,880	11.9	3,240	13.4	3,856	15.9	3,856	15.8	4,791	19.5	5,622	23.0	5,219	21.4
歯科口腔外科	7,190	29.6	7,759	32.1	8,485	34.9	7,795	31.9	8,753	35.7	9,149	37.5	9,356	38.8
健康管理科	599	2.5	565	2.3	486	2.0	363	1.5	352	1.4	406	1.7	558	2.3
腎臓内科	3,732	15.4	3,945	16.3	4,074	16.8	4,738	19.4	4,211	17.2	3,696	15.2	4,107	16.8
緩和ケア内科	1,709	7.0	1,671	6.9	1,431	5.9	1,120	4.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
リハビリ科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
内科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
脳卒中科	192	0.8	146	0.6	129	0.5	195	0.8	238	1.0	189	0.8	175	0.7
漢方内科	0	0.0	519	2.1	1,000	4.1	1,048	4.3	960	3.9	869	3.6	916	3.8
救急科	10,979	45.2	11,531	47.6	9,783	40.3	9,362	38.4	9,157	37.4	9,486	38.9	9,709	39.8
合計	261,704	1,077.0	258,890	1,069.8	252,453	1,038.9	261,765	1,072.8	250,513	1,022.5	246,163	1,008.9	253,091	1,037.7

出典：市立島田市民病院調べ

(イ) 年齢別患者数推移（外来）

平成21年度から25年度までの外来患者数の年齢別構成比の推移をみると、65歳以上の高齢者の割合が増加傾向にあります。

平成25年度の年齢別割合は、「80歳以上」19.3%、「75～79歳」13.8%、「70～74歳」12.9%、「65歳～69歳」11.1%で、65歳以上が外来患者全体の約57%となっています。



年齢別患者数推移（外来）

単位：人、%

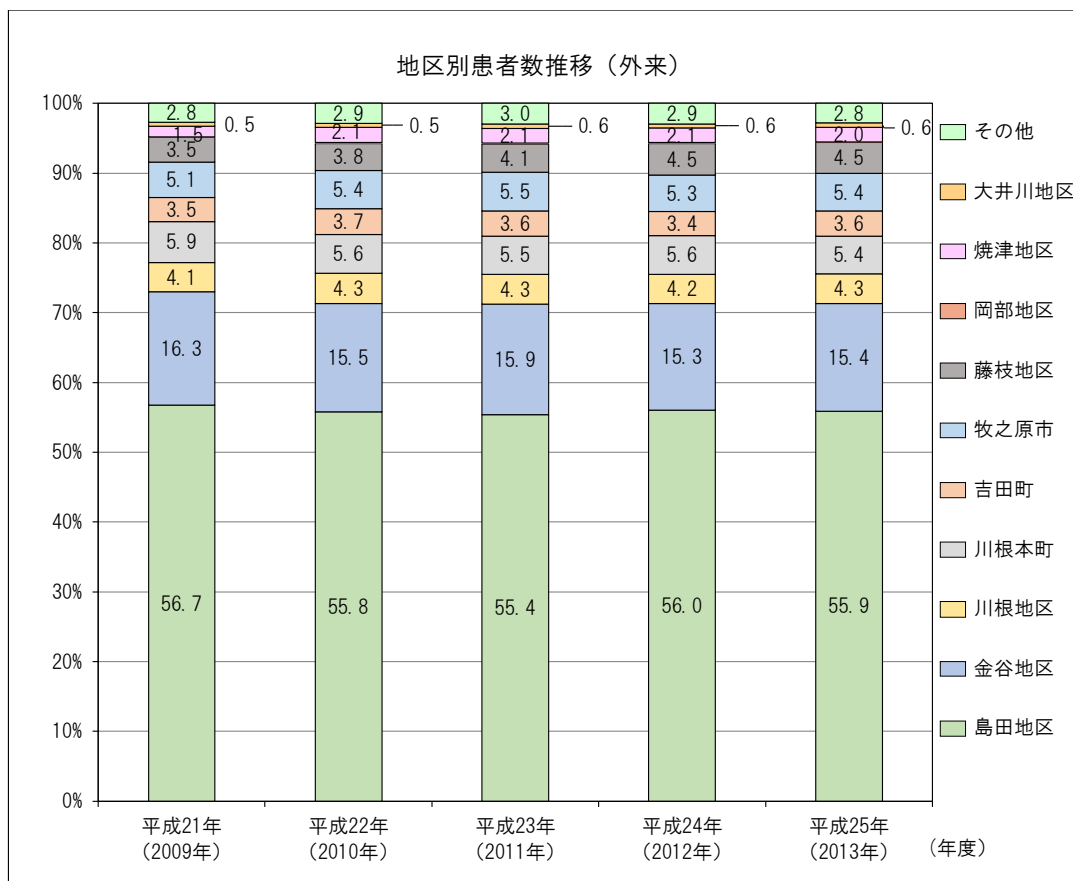
年齢階級	平成21年度 (2009年)		平成22年度 (2010年)		平成23年度 (2011年)		平成24年度 (2012年)		平成25年度 (2013年)	
	1日平均	構成比	1日平均	構成比	1日平均	構成比	1日平均	構成比	1日平均	構成比
1歳未満	13.9	1.3	13.7	1.3	13.3	1.2	12.0	1.2	9.7	1.0
1～4歳	33.9	3.2	29.6	2.8	28.2	2.6	28.7	2.8	23.4	2.3
5～9歳	25.3	2.4	19.8	1.9	19.4	1.8	19.9	1.9	17.8	1.8
10～19歳	35.9	3.4	32.4	3.1	32.4	3.0	31.4	3.1	31.2	3.1
20～29歳	39.7	3.7	34.9	3.4	33.1	3.1	30.3	3.0	30.7	3.0
30～39歳	55.5	5.2	53.2	5.1	53.3	5.0	51.4	5.0	48.4	4.8
40～49歳	66.8	6.2	68.7	6.6	69.9	6.5	64.5	6.3	61.7	6.1
50～59歳	125.4	11.7	114.9	11.1	120.8	11.3	111.9	10.9	111.2	11.0
60～64歳	97.8	9.1	102.7	9.9	110.8	10.3	106.8	10.4	97.5	9.7
65～69歳	115.9	10.8	110.9	10.7	112.5	10.5	107.7	10.5	112.4	11.1
70～74歳	129.6	12.1	127.3	12.3	134.2	12.5	129.1	12.6	130.1	12.9
75～79歳	144.0	13.5	142.8	13.7	148.0	13.8	139.6	13.7	139.6	13.8
80歳以上	186.1	17.4	188.0	18.1	196.9	18.4	189.2	18.5	195.2	19.3
計	1,069.8	100.0	1,038.9	100.0	1,072.8	100.0	1,022.5	100.0	1,008.9	100.0

出典：市立島田市民病院調べ

(ウ) 地区別患者数推移（外来）

平成21年度から25年度までの外来患者の地区別構成の推移をみると、ほぼ同様の構成で推移しています。

平成25年度の患者数は、「島田市島田地区」が55.9%、「島田市金谷地区」が15.4%と両地区で約71%を占めています。



地区別患者数推移（外来）

単位：人、%

区分	平成21年度 (2009年)		平成22年度 (2010年)		平成23年度 (2011年)		平成24年度 (2012年)		平成25年度 (2013年)	
	1日平均	割合	1日平均	割合	1日平均	割合	1日平均	割合	1日平均	割合
島田市 島田地区	606.6	56.7	580.1	55.8	593.9	55.4	573.1	56.0	563.9	55.9
島田市 金谷地区	174.5	16.3	161.0	15.5	170.3	15.9	156.2	15.3	155.3	15.4
島田市 川根地区	44.3	4.1	44.5	4.3	45.6	4.3	42.6	4.2	42.9	4.3
川根本町	63.3	5.9	58.2	5.6	59.2	5.5	56.8	5.6	54.8	5.4
吉田町	37.0	3.5	38.6	3.7	38.2	3.6	35.0	3.4	36.4	3.6
牧之原市	54.5	5.1	56.6	5.4	59.4	5.5	53.8	5.3	54.0	5.4
藤枝市 藤枝地区	37.4	3.5	39.9	3.8	43.6	4.1	46.0	4.5	45.0	4.5
藤枝市 岡部地区	1.0	0.1	2.0	0.2	1.6	0.1	1.4	0.1	1.2	0.1
焼津市 焼津地区	16.0	1.5	22.3	2.1	22.8	2.1	21.6	2.1	20.4	2.0
焼津市 大井川地区	5.6	0.5	5.7	0.5	6.3	0.6	6.0	0.6	6.4	0.6
その他	29.6	2.8	30.0	2.9	31.9	3.0	30.0	2.9	28.6	2.8
合計	1,069.8	100.0	1,038.9	100.0	1,072.8	100.0	1,022.5	100.0	1,008.9	100.0

出典：市立島田市民病院調べ

ウ 救急車搬送患者

(ア) 島田市の救急搬送件数

島田市や川根本町等で発生した救急搬送件数のうち、90%以上を本院が受け入れています。島田市内の平成26年の救急搬送件数は、「軽症」が1,919件で全体の54%を占め、次いで「中等症」1,192件(34%)、「重症」405件(11%)となっています。

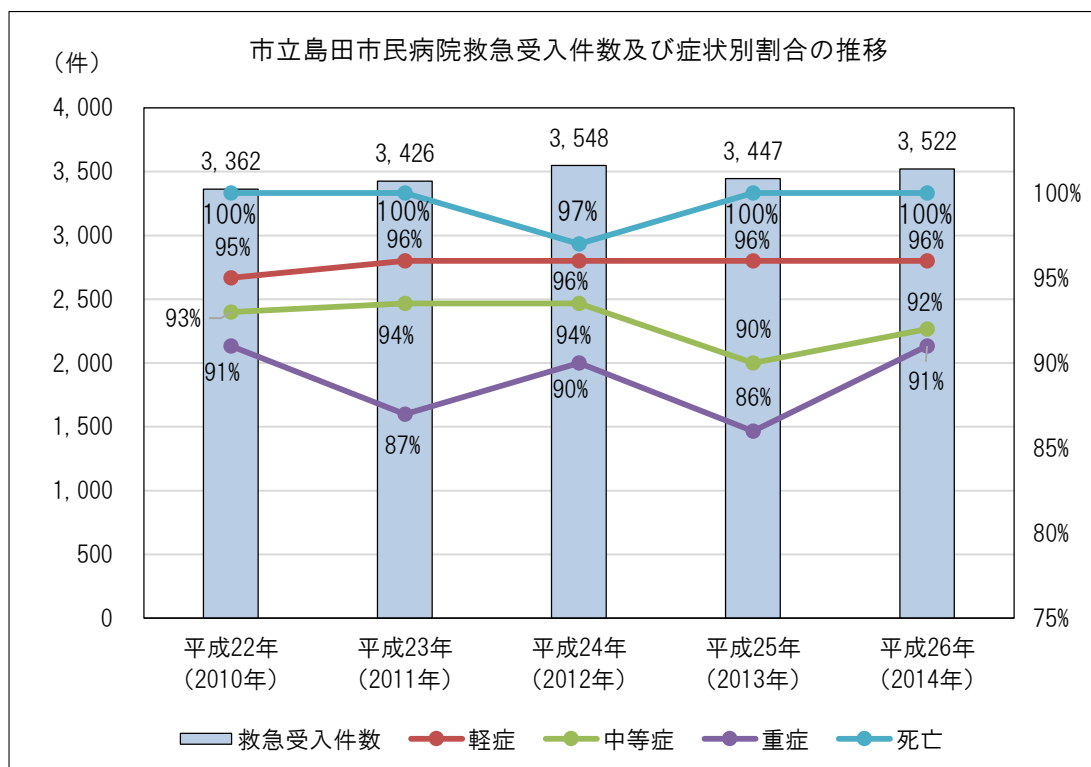
救急搬送件数（全件数）の搬送先施設 単位：件

搬送先施設	軽症	中等症	重症	死亡	合計	割合
市立島田市民病院	1,919	1,192	405	6	3,522	94%
	54.5%	33.8%	11.5%	0.2%	100%	
藤枝市立総合病院	28	26	6	0	60	2%
焼津市立総合病院	16	15	5	0	36	1%
榛原総合病院	4	0	0	0	4	0%
静岡市立病院	0	7	7	0	14	0%
藤枝平成記念病院	6	10	1	0	17	0%
その他	19	39	22	0	80	2%
合計	1,992	1,289	446	6	3,733	100%

出典：島田市消防本部（平成26年）

(イ) 救急受入件数・傷病程度別シェアの推移

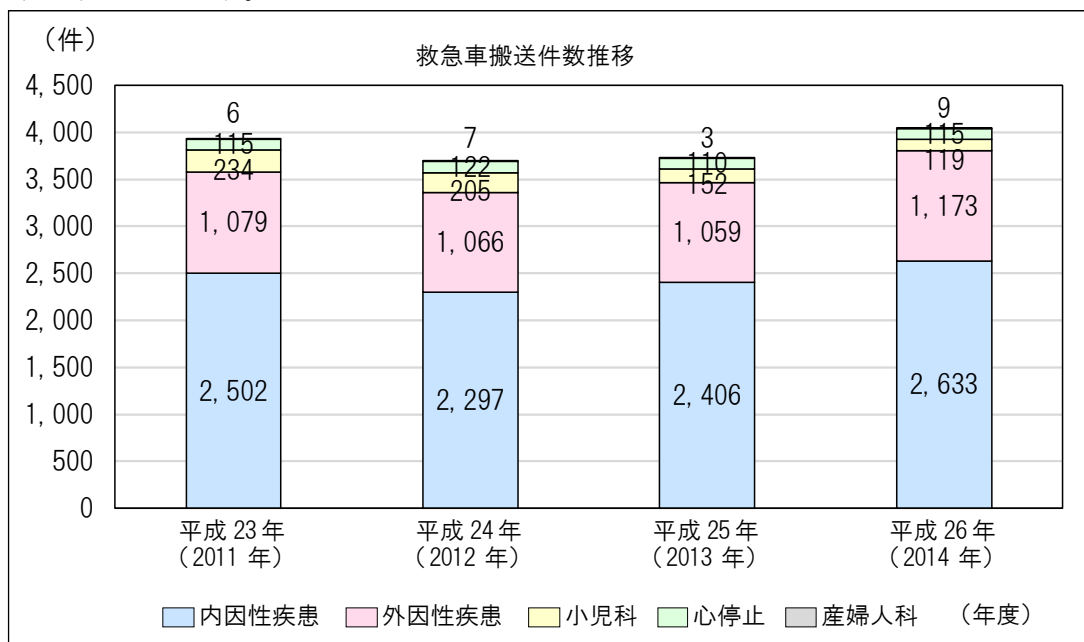
本院の救急搬送受入件数は3,500件程度で推移し、島田市内の救急搬送割合は90%を超えており、市民の救急医療においても重要な役割を担っています。



出典：島田市消防本部

(ウ) 救急車搬送件数の推移

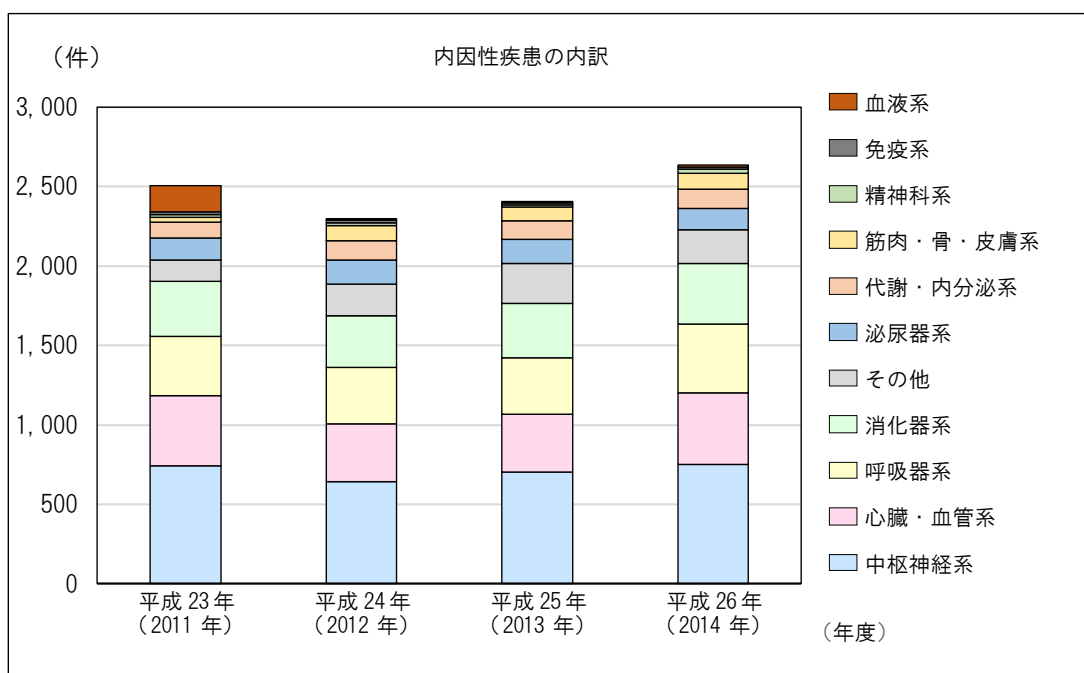
平成24年度以降、救急搬送件数は増加傾向にあり、平成23年度から平成26年度までの救急車搬送件数の内訳をみると、内因性疾患及び外因性疾患によるものが全体の約9割を占めています。



出典：市立島田市民病院調べ

(エ) 内因性疾患の内訳

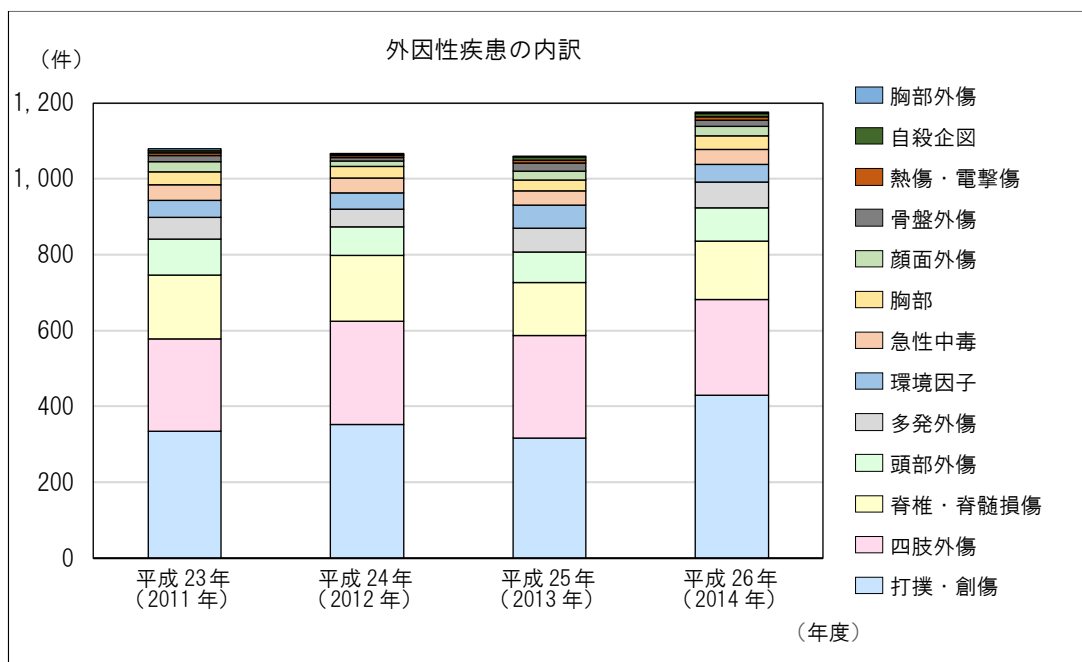
平成23年度からの内因性疾患の救急搬送件数の内訳をみると、「中枢神経系」、「心臓・血管系」、「呼吸器系」、「消化器系」の占める割合が大きくなっています。平成24年度以降、「泌尿器系」などが減少し、「中枢神経系」、「心臓・血管系」、「呼吸器系」、「消化器系」が増加しています。



出典：市立島田市民病院調べ

(オ) 外因性疾患の内訳

平成23年度からの外因性疾患の救急搬送件数の内訳をみると、「打撲・創傷」、「四肢外傷」、「脊椎・脊髄損傷」の占める割合が大きくなっています。



出典：市立島田市民病院調べ

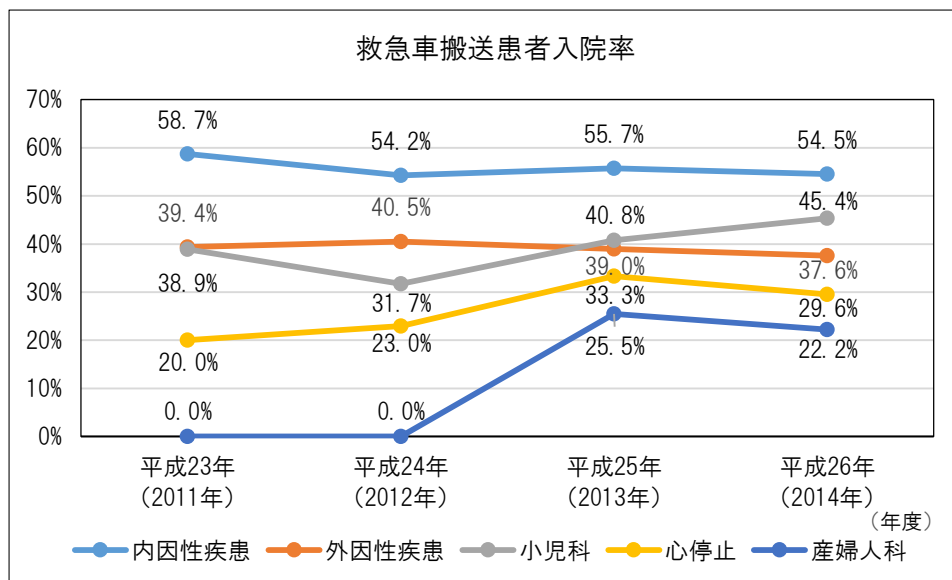
内因性疾患及び外因性疾患の救急搬送件数内訳の推移

単位 (件)

疾患区分	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)
内因性疾患				
中枢神経系	745	643	703	753
心臓・血管系	438	363	365	447
呼吸器系	375	358	355	434
消化器系	344	325	341	381
その他	137	199	251	211
泌尿器系	135	152	151	135
代謝・内分泌系	102	120	118	122
筋肉・骨・皮膚系	30	94	86	99
精神科系	18	19	13	27
免疫系	14	15	13	13
血液系	164	9	10	11
内因性疾患 計	2502	2297	2406	2633
外因性疾患				
打撲・創傷	333	352	316	429
四肢外傷	244	273	271	253
脊椎・脊髄損傷	169	172	139	153
頭部外傷	94	75	81	89
多発外傷	59	48	63	67
環境因子	44	43	61	46
急性中毒	42	39	37	40
胸部	33	30	29	36
顔面外傷	26	14	23	26
骨盤外傷	17	9	21	16
熱傷・電撃傷	7	5	8	8
自殺企図	6	5	8	8
胸部外傷	5	1	2	5
外因性疾患 計	1,079	1,066	1,059	1,176
合計	3,581	3,363	3,465	3,809

(カ) 救急車搬送患者入院率

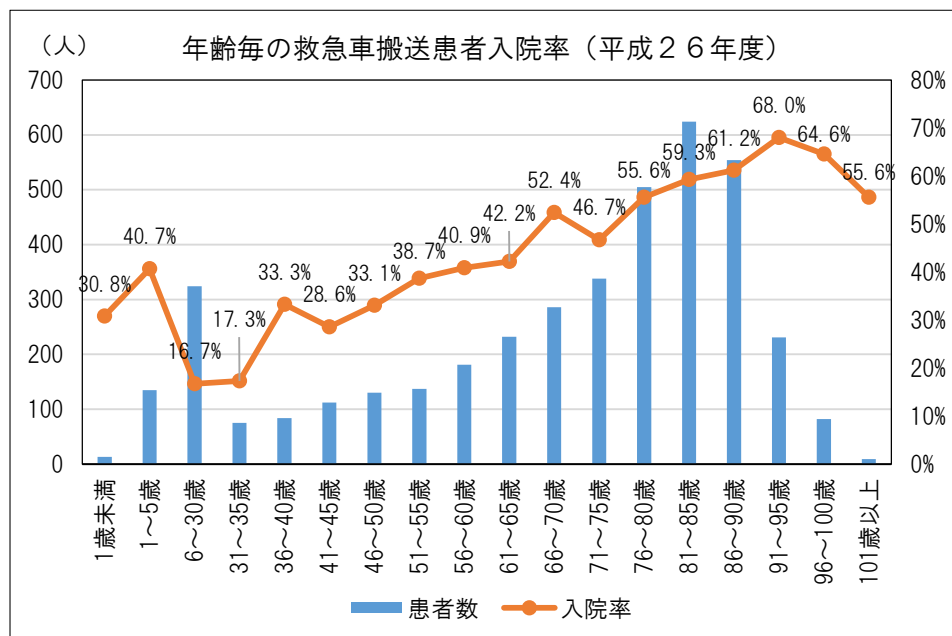
救急車搬送された患者のうち、救急処置後に入院を必要とした患者の割合を示す入院率の推移をみると、内因性疾患及び外因性疾患は微減傾向にあるものの、小児科の入院率は平成24年度以降、増加しています。



出典：市立島田市民病院調べ

(キ) 年齢毎の救急車搬送患者入院率

平成26年度の年齢毎の患者は、81～85歳が624人と最も多く、救急車搬送患者入院率をみると、65歳以上の高齢者が多く、全体の約65%を占めています。



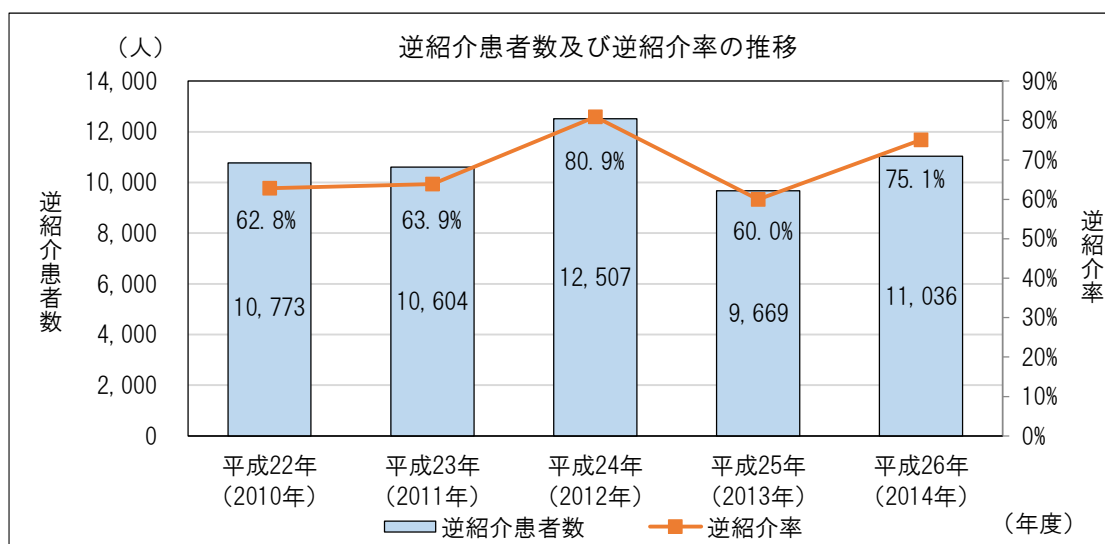
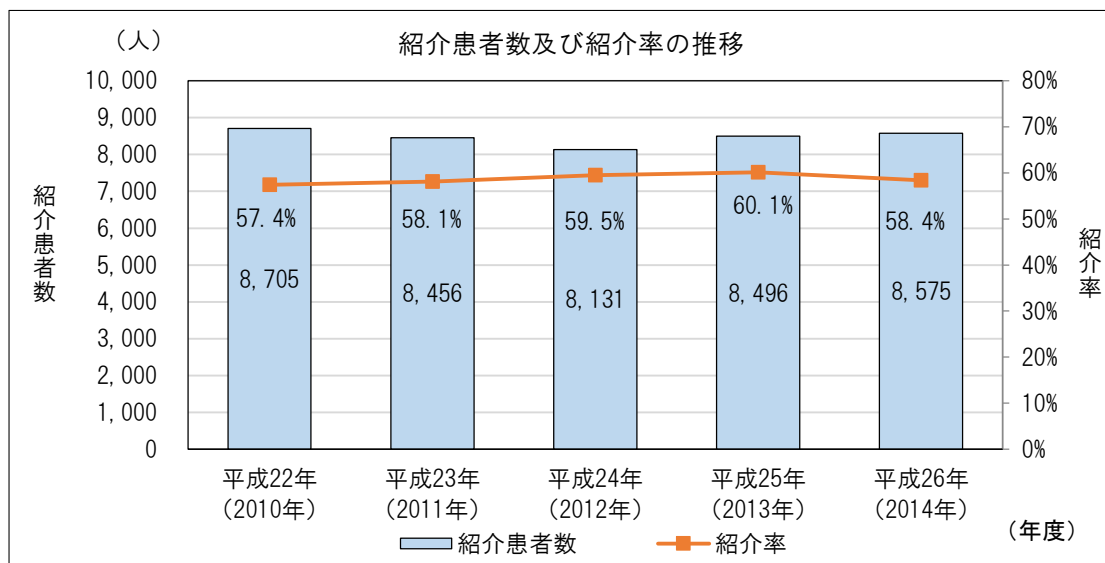
出典：市立島田市民病院調べ

エ 紹介患者

(ア) 患者紹介・逆紹介件数推移

本院は平成23年9月に地域医療支援病院として承認されています。平成22年度からの紹介患者数は約8,100人から8,700人で増減しています。紹介率は増加傾向で平成25年度は60.1%となっています。平成26年度は算定方法が変更されたこともあり58.4%となっています。

逆紹介患者数は約9,600人から13,000人で増減しています。逆紹介率は増加傾向でしたが、平成25年度は前年度より約20ポイント減少し60.0%となりましたが、26年度は75.1%と回復しています。



紹介率及び逆紹介率の推移

項目 \ 年度	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)
紹介患者数 (人)	8,705	8,456	8,131	8,496	8,575
紹介率 (%)	57.4	58.1	59.5	60.1	58.4
逆紹介患者数 (人)	10,773	10,604	12,507	9,669	11,036
逆紹介率 (%)	62.8	63.9	80.9	60.0	75.1

出典：市立島田市民病院調べ

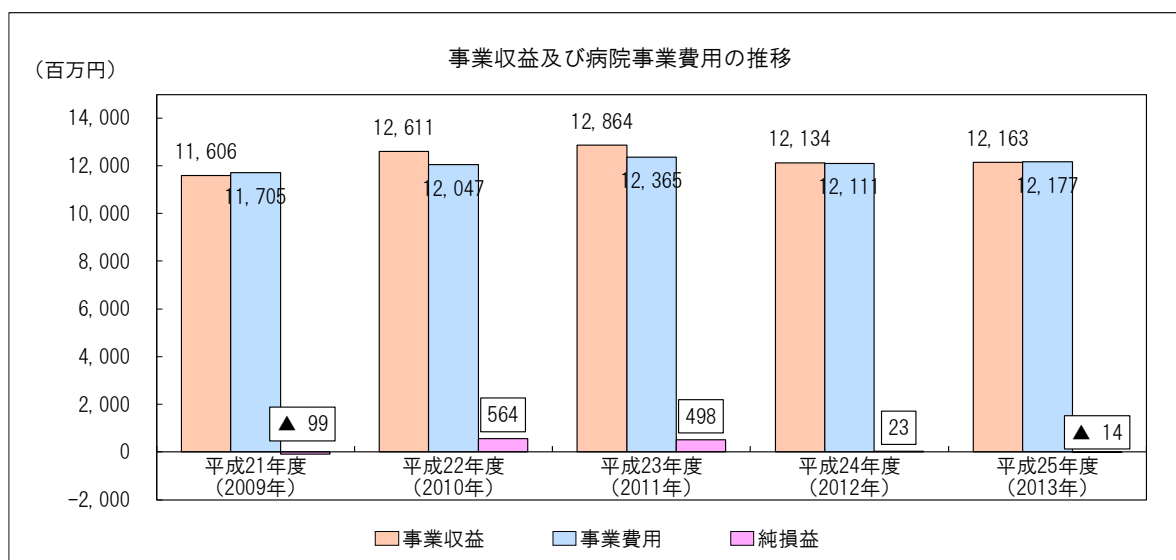
(7) 経営状況

ア 事業収益と事業費用の推移

事業収益は平成21年度から増加し、平成23年度は約128億円でしたが、平成24年度は約7億円減少し約121億円となり、平成25年度も同程度の値となっています。

事業費用は事業利益と同様の傾向で平成23年度は約124億円、平成24年度は約2億5千万円減少し121億円となり、平成25年度も同程度の値となっています。

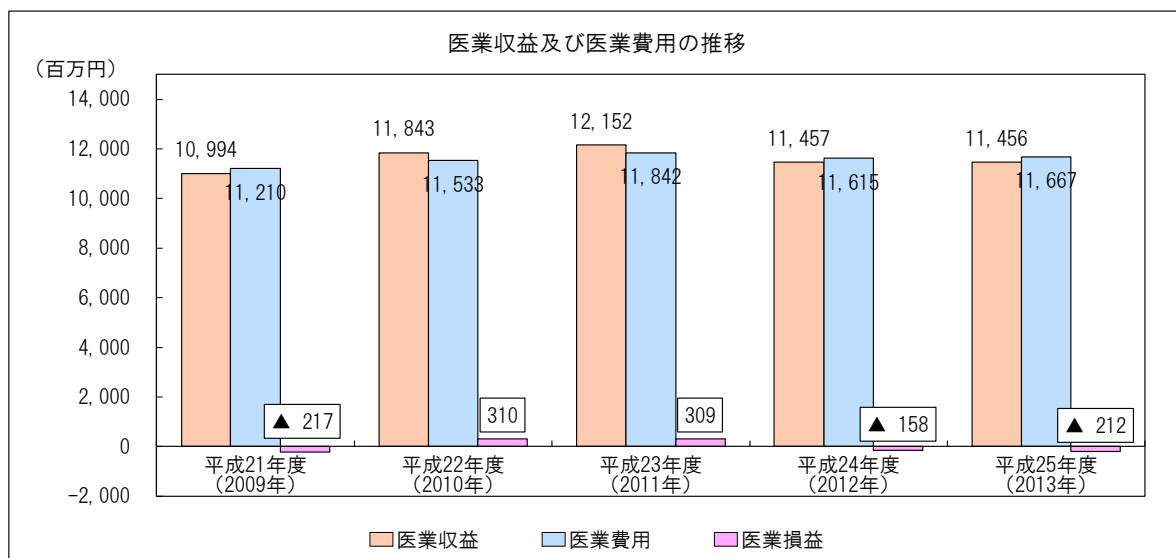
平成22年度、23年度は約5億円の利益を計上しましたが、平成24年度は約2千3百万円と減少し、平成25年度は約1千4百万円の損失となっています。



出典：地方公営企業年鑑

イ 医業収益と医業費用の推移

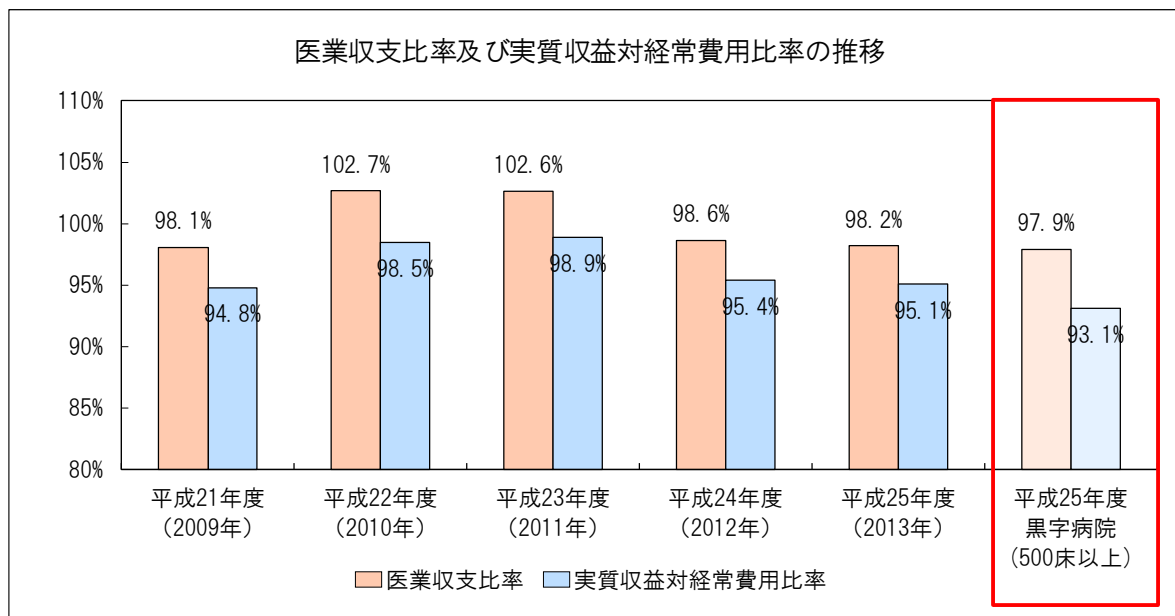
医業収益、医業費用は事業収益、事業費用と同様の傾向で推移し、平成22年度、23年度は約3億円の利益を計上しましたが、平成24年度は約1.5億円、平成25年度は約2億円の損失となっています。



出典：地方公営企業年鑑

ウ 医業収支比率と実質収益対経常費用比率の推移

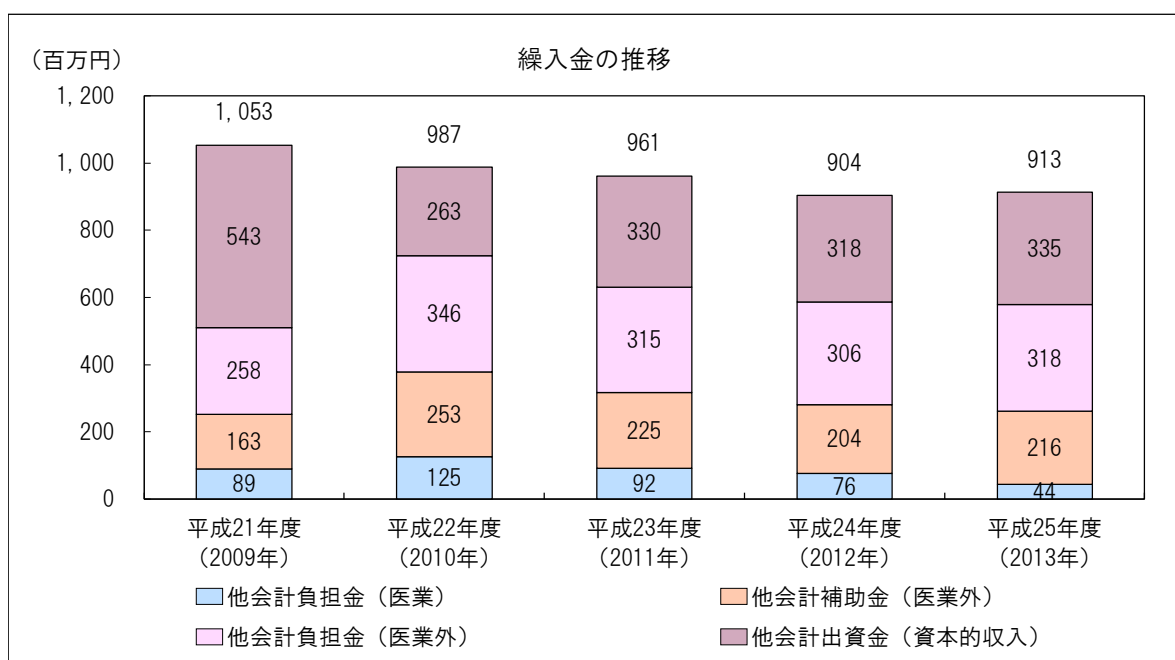
実質収益対経常費用比率は、平成23年度には98.9%となりましたが、平成24年度、25年度は95%台に低下しています。これは比較指標（平成25年度地方公営企業年鑑：病床500床以上黒字）の93.1%を上回っています。



エ 繰入金、剰余金の推移

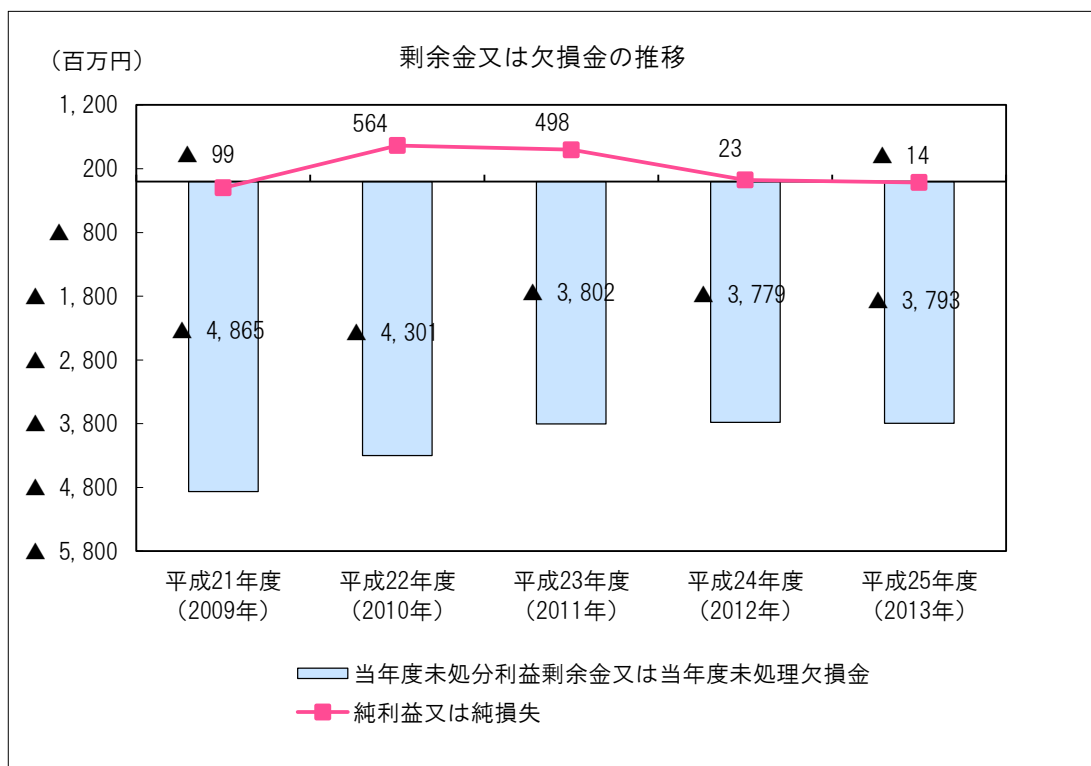
(ア) 繰入金の比較

繰入金（資本的収入含む）については、平成21年度以降減少していましたが、平成25年度は24年度に比べ約1千万円増加し約9.1億円の繰り入れが生じています。



(イ) 剰余金又は欠損金の推移

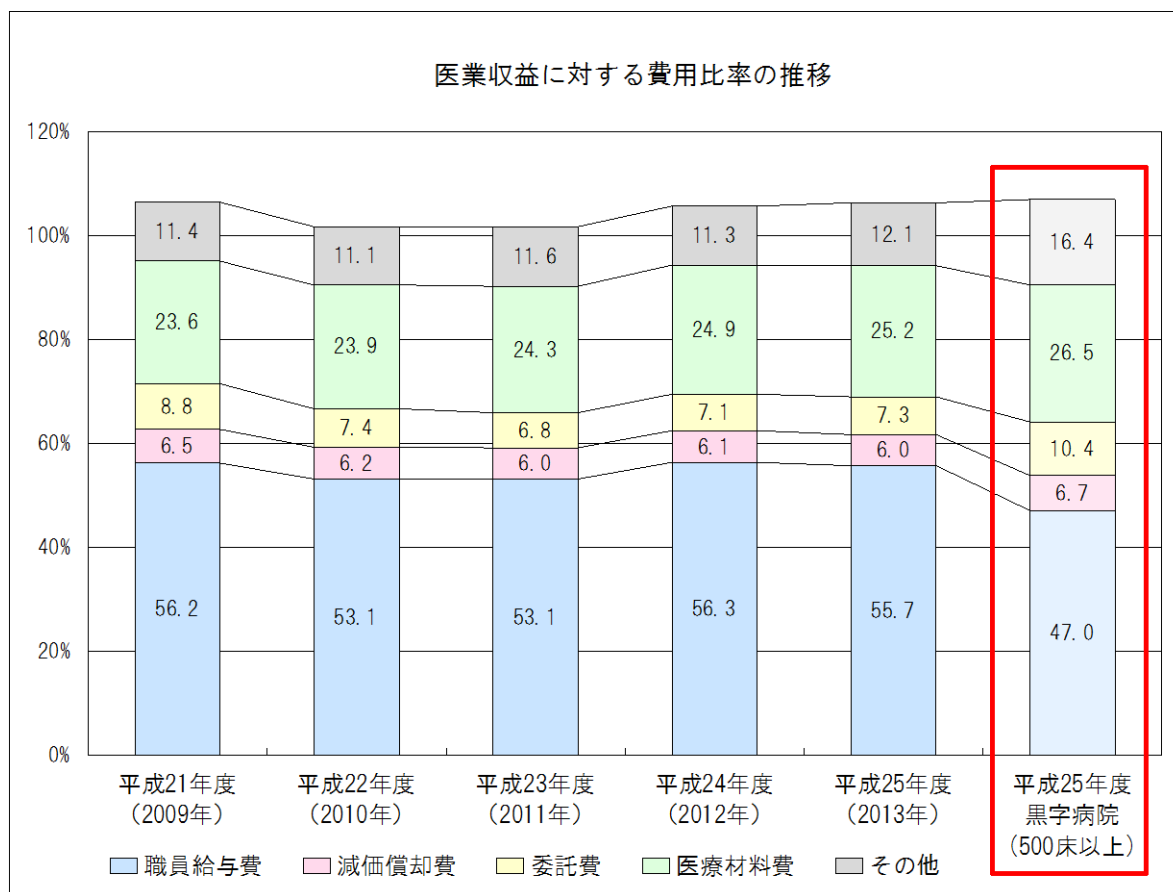
平成22年度から24年度までは純利益を計上していることから、欠損金は改善し平成22年度に48.7億円であったものが、平成25年度は37.9億円まで減少しています。



出典：地方公営企業年鑑

オ 医業収益に対する費用比率の推移と比較

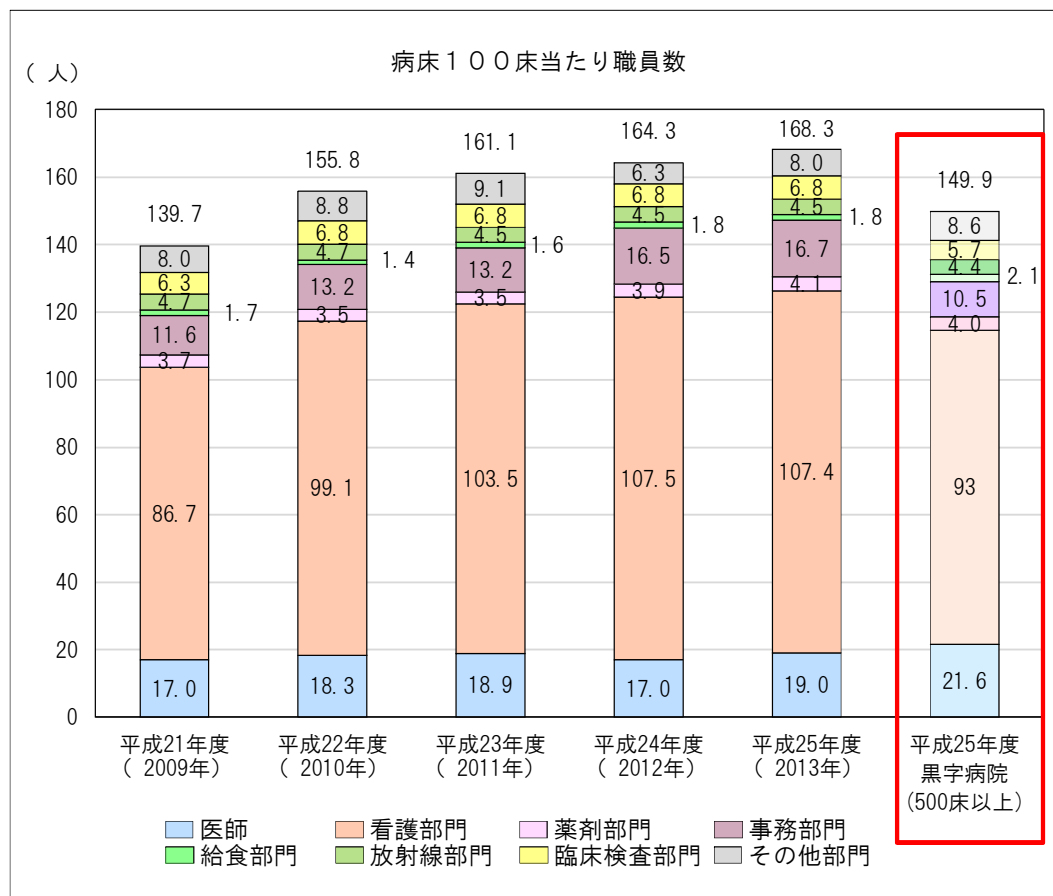
医業収益に対する費用構成比率をみると、職員給与費比率は平成22年度、23年度は医業収益が増加したこともあり低下していますが、平成24年度、25年度は約56%となっています。医療材料費比率は平成21年度以降微増加傾向にあり、平成25年度は25.2%となっています。本院は療養病床を含むため、単純な比較はできませんが、一般病床500床以上の黒字病院と比較すると、職員給与費比率は約9ポイント上回っています。委託料比率は約3ポイント、その他は約4ポイント下回っています。



出典：地方公営企業年鑑

カ 病床100床当たり職員数の比較

病床100床当たり職員数は平成21年度以降増加傾向にあり、看護部門、事務部門で増加がみられます。指標（平成25年度地方公営企業年鑑：病床500床以上黒字）に対し、看護部門は約14ポイント、事務部門約6ポイント高く、医師は約3ポイント低くなっています。



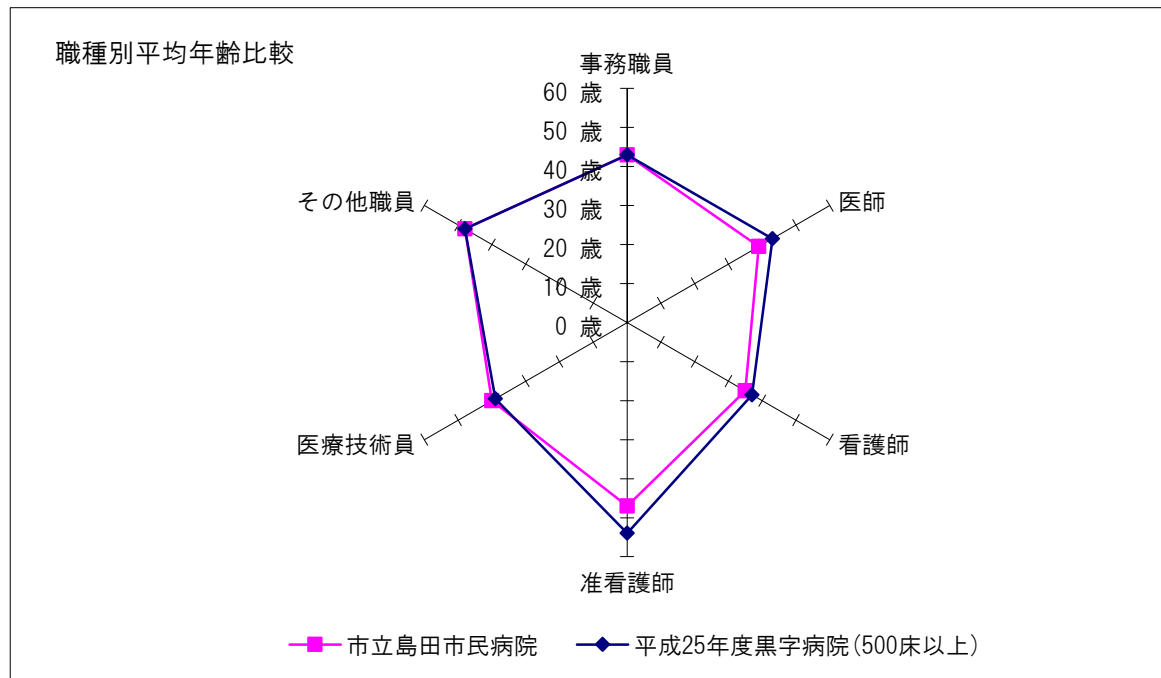
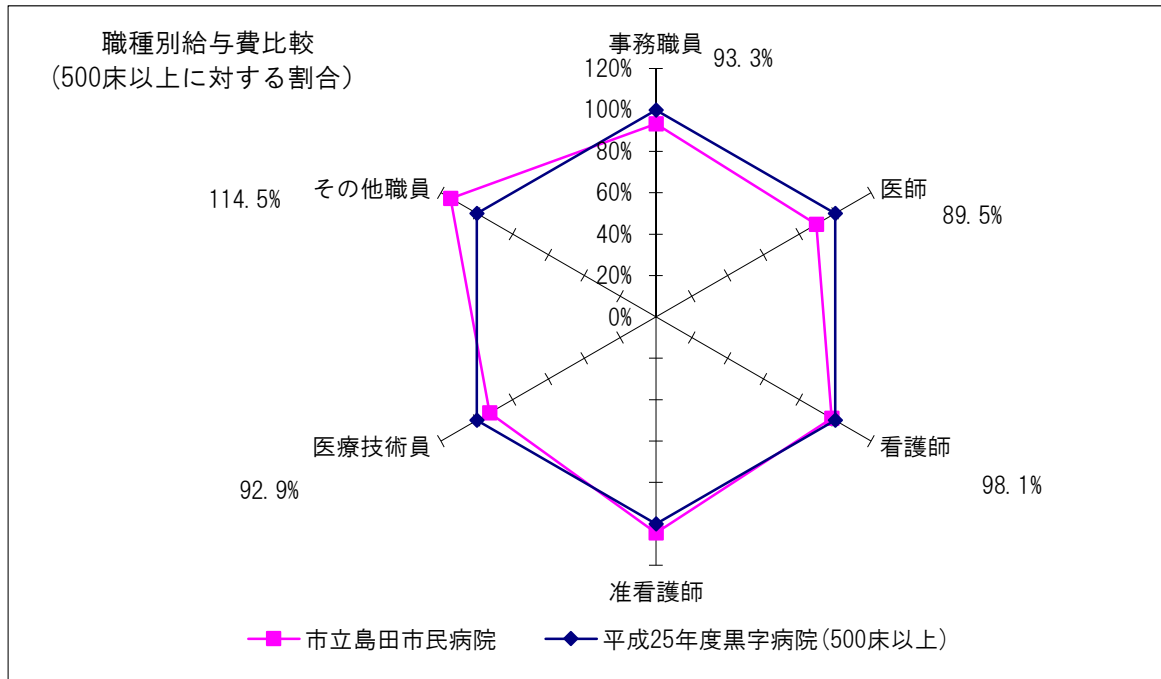
出典：地方公営企業年鑑

※本院の100床当たり職員数については、医療秘書、非常勤及び嘱託等職員を含んでいます。

キ 職種別給与費の比較

平成25年度の本院の職種別給与を指標(平成25年度地方公営企業年鑑:病床500床以上)と比べると、その他職員、准看護師で上回り、それ以外の職種は下回っています。

また、職種別平均年齢は、医師、看護師、准看護師で下回り、その他の職種は同程度となっています。



出典：地方公営企業年鑑

4 本院に係る基本分析・主な課題

(1) 本院の周辺環境に係る基本分析

ア 志太榛原保健医療圏の状況

- ・志太榛原保健医療圏では、基準病床3,507床に対し、既存病床3,510床とほぼ均衡のとれた病床整備状況となっています。
- ・志太榛原保健医療圏の一般病床の利用率(67.6%)は、静岡県全域(71.6%)、全国(75.5%)と比べ低くなっています。
- ・志太榛原保健医療圏の平均在院日数(14.6日)は、静岡県全域(15.6日)、全国(17.2日)と比べ短くなっています。
- ・志太榛原保健医療圏の人口10万人対医師数(94.9人)は、静岡県全域(128.1人)、全国(162.3人)と比べ少ない状況です。
- ・志太榛原保健医療圏の人口10万人対薬剤師数(20.9人)は、静岡県全域(29.5人)、全国(35.9人)と比べ少ない状況です。
- ・志太榛原保健医療圏の人口10万人対看護師数(400.1人)は、静岡県全域(492.0人)、全国(586.8人)と比べ少ない状況です。
- ・志太榛原保健医療圏内の医療機関は、本院を含めて13病院であり、病院群輪番制病院(二次救急医療)は4病院、災害拠点病院は3病院となっています。
- ・本院を中心とした半径5km圏内には、藤枝市立総合病院が設置されています。
- ・志太榛原保健医療圏の人口は、年々減少し、平成52年には平成27年の84.5%になることが予測されています。
- ・島田市の将来推計人口では、平成52年には平成27年の79.9%まで減少する一方で、高齢化率は37.5%まで上昇することが予測されています。特に75歳以上人口は、平成42年まで増加することが予測されています。

イ 推計患者数

(ア) 入院患者

- ・志太榛原保健医療圏の1日当たりの入院患者数は、平成37年(2025年)には3,537人に達し、その後、平成42年まで増加すると推計されます。
- ・島田市の1日当たりの入院患者数は、平成37年(2025年)には575人に達し、その後、平成42年まで増加すると推計されます。平成27年と平成42年を疾病分類別に比較すると特に「循環器系」、「損傷」、「呼吸器系」などが増加し、「妊娠」などが減少しています。

(イ) 外来患者

- ・志太榛原保健医療圏の1日当たりの外来患者数は、平成32年の24,682人をピークに減少すると推計されます。
- ・島田市の1日当たりの外来患者数は、平成27年の5,227人をピークに減少すると推計されます。平成27年と平成42年を疾病分類別に比較すると「循環器系」、「筋骨格系」は微増しますが、他は減少しています。

(2) 本院の状況に係る基本分析

ア 職員数の動向

- ・本院の職員数は平成20年度以降、平成25年度まで増加してきましたが、平成26年度は若干減少しています。増加の主たる要因は看護師数の増加によるものです。医師数については、増減はあるものの一定数を確保し、医療機能の確保に努めています。

イ 病院の患者動向

(ア) 入院

- ・1日平均入院患者数は平成20年度以降増減がみられ、平成24年度は410人まで減少しましたが、以降は増加傾向を示し、平成26年度は428人となっています。診療科別にみると、平成24年度は医師が不在となった眼科及び医師が減少した呼吸器内科・呼吸器外科の減少が大きくなっています。
- ・一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く。）の平均在院日数は平成25年度の14.0日を除き12日後半から13日前半で推移しています。
- ・病床利用率は平成22年度、23年度は90%前後でしたが、平成24年度以降は80%前後で推移しています。
- ・平成21年度から25年度までの入院患者数の年齢別構成の推移をみると、23年度以降80歳以上の割合が増加しています。平成25年度の年齢別割合は、「80歳以上」が39.0%、「75～79歳」が13.2%、「70～74歳」が11.0%、「65歳～69歳」が9.0%で65歳以上の割合が約72%となっています。
- ・平成21年度から平成25年度の入院患者数の地区別構成の推移をみると、24年度以降から島田市島田地区の患者数割合が増加傾向にあります。平成25年度は、島田市内が約75%となっており、地区別では、「島田市島田地区」が最も多く約56%となっています。
- ・平成24年度から平成26年度の1日当たり患者数の推移をみると、「新生物」、「循環器」、「呼吸器系」、「消化器系」、「損傷」などが増加しています。これは、島田市の将来推計患者と同様の傾向にあります。
- ・平成24年度から平成26年度の本院に救急搬送される患者の疾病分類別内訳の推移をみると、「新生物」、「神経系」、「循環器系」、「呼吸器系」、「消化器系」、「損傷」などが増加しています。

(イ) 外来

- ・平成20年度以降の1日平均外来患者数は、1,000人～1,080人前後で増減しています。平成24年度は前年度と比べ約50人減少しており、医師の減少等のあった眼科、呼吸器内科・呼吸器外科で減少しています。
- ・平成21年度から25年度までの外来患者数の年齢別構成比の推移をみると、65歳以上の高齢者の割合が増加傾向にあります。平成25年度の年齢別割合は、「80歳以上」19.3%、「75～79歳」13.8%、「70～74歳」12.9%、「65歳～69歳」11.1%で、65歳以上が外来患者全体の約57%となっています。
- ・平成21年度から25年度までの外来患者の地区別構成の推移をみると、ほぼ同様の構成で推移しています。平成25年度の患者数は、「島田市島田地区」が55.9%、「島田市金谷地区」が15.4%と両地区で約71%を占めています。

ウ 救急搬送状況

- ・島田市や川根本町等で発生した救急搬送件数のうち、90%以上を本院が受け入れています。島田市内の平成26年の救急搬送件数は、「軽症」が1,919件で全体の54%を占め、次いで「中等症」1,192件(34%)、「重症」405件(11%)となっています。
- ・本院に救急搬送される疾患は、内因性疾患の占める割合が大きくなっています。また、平成24年度以降、「中枢神経系」、「心臓・血管系」、「呼吸器系」、「消化器系」が増加しています。
- ・平成26年度の年齢毎の救急車搬送患者入院率をみると、65歳以上の高齢者が多く、全体の約65%を占めています。

エ 経営状況

- ・実質収益対経常費用比率については、平成23年度には98.9%であったが平成25年度で95.1%に低下しているが、比較指標となる平成25年度地方公営企業年鑑の病床500床以上の黒字病院の平均値93.1%を上回っています。
- ・繰入金(資本的収入含む)については、平成21年度以降減少していましたが、平成25年度は平成24年度に比べ約1千万円増加し、約9億1千万円の繰り入れが生じています。
- ・職員給与費比率は、平成22年度、平成23年度は医療収益が増加したこともあり低下していますが、平成24年度、平成25年度は約56%となっています。
- ・医療材料費比率は平成21年度以降微増傾向にあり、平成25年度は25.2%となっています。

オ 連携状況

- ・本院は平成23年9月に地域医療支援病院として承認されています。平成22年度からの紹介患者数は約8,100人から8,700人で増減しています。紹介率は増加傾向で平成25年度は60.1%となっています。平成26年度は算定方法が変更されたこともあり58.4%となっています。
- ・逆紹介患者数は約9,600人から13,000人で増減しています。逆紹介率は増加傾向でしたが、平成25年度は前年度より約20ポイント減少し60.0%となりましたが、26年度は75.1%と回復しています。

カ 診療実績

- ・本院の医療圏でのシェアの評価の目安として、志太榛原保健医療圏内のDPC対象の5病院の病床数割合である26.2%を設定すると、8診断群で目安を超えています。なかでも「眼科」、「血液」、「小児」は最も高くなっています。また、今後患者の増加が予測される「循環器」、「呼吸器」などでシェアが高くなっています。
- ・高齢化が進む本圏域において、今後の需要が高まることが想定される循環器疾患患者数のDPC対象の5病院の状況をみると、本院は、藤枝市立総合病院に次いで多くなっています。疾患別では、「弁膜症」、「閉塞性動脈疾患」、「狭心症、慢性虚血性心疾患」及び「急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞」で藤枝市立総合病院を上回っています。

(3) 基本分析からの課題

国や県の医療政策動向や本院を取り巻く状況等を踏まえ、今後の新病院における課題を以下のとおり整理します。

ア 医療需要

平成47年の島田市の人口は平成27年と比較し、約16%減少するが、受療率の高い65歳以上の高齢者はほぼ横ばいで推移すると推計されます。これから、入院医療需要を推計すると、平成42年の579人をピークに減少し、平成62年には現状の推計患者数535人を30人程度下回ると推計されます。

傷病分類別では、循環器疾患、損傷、呼吸器系疾患が増加すると推計されます。

島田市の入院医療需要は大きく減少することがないことから市内で唯一の病院である本院は、適切な機能・規模を維持していく必要があります。

イ 急性期医療

国が示す病床機能の分化という方針の中で、引き続き市民の命と健康を守る市内唯一の総合病院として存続していくためには、急性期を中心とする医療に重点を置いた地域医療の中核を担っていくことが求められます。

ウ 救急医療

志太榛原保健医療圏には救命救急センターが設置されていないこと、また隣接する保健医療圏の救命救急センターからの30分圏内にカバーされていないことから、志太榛原保健医療圏内の病院がその機能を担っていると考えられます。

本院は島田市消防本部管内（島田市及び川根本町）の救急搬送事案の約95%を受入れています。特に「急性心筋梗塞」、「狭心症、慢性虚血性心疾患」などの迅速な対応が求められる患者を多く受け入れています。

今後も高齢化により救急患者数の増加が見込まれることから、対応した機能の充実が求められます。

エ 災害時における医療

「災害拠点病院」、「救護病院」、「静岡DMAT指定病院」、「初期被ばく医療機関」として、南海トラフ地震等の大規模地震や水害等の突発的かつ広域的な大災害時においても医療活動が継続できるよう、引き続き重要な役割を担っていく医療体制が必要となります。

オ 小児医療、周産期医療、へき地の医療等

小児救急医療、小児専門医療、正常分娩等を担い、近隣の診療所等も支援しつつ市民が安心できる質の高い医療を引き続き行う必要があります。

カ 人材育成等

地域で求められる医療を安定的に提供していくためには、医師、看護師をはじめとする医療従事者の確保が必要となります。

特に医師の確保は医療の提供、患者数の増減に大きく影響することから負担の軽減策、研修環境の整備、勤務環境の整備等を図り魅力ある病院づくりをすることが重要となります。

キ 医療圏内の連携推進

当市においては本院を除き療養病床が無く、地域完結型の医療を推進していく中で急性期の治療を終えた患者の療養環境について圏域の課題として検討していく必要があります。

また、患者の在院日数の短縮を図るためには、圏域内での各医療機関の役割分担と連携を一層強化していく必要があります。

平成26年度の本院の在宅復帰率は97.1%で、退院先のほとんどは「自宅」となっています。今後は高齢者のみの世帯も増え、自宅への退院が困難となる可能性があり、退院患者の療養環境を充実させていくためにも、医療・介護の連携を中心とし、国が描いた在宅支援のシステム（地域包括ケアシステム）の実現が急務となります。

5 新病院建替えの必要性

将来にわたって志太榛原保健医療圏の医療を担う本院は、以下のような施設面の課題を抱えているため、建替えを進める必要があります。

(1) 災害拠点病院としての耐震性の不足

現在の病院本館については、静岡県が独自に策定した東海地震に対する公共建築物の耐震性能判定基準では「耐震性能がやや劣る建物」、「倒壊する危険性は低いが、かなりの被害をうけることも想定される」建物が該当しています。

大規模地震等の突発的かつ広域的な大災害時においても医療活動が継続できるよう、早期に十分な耐震性を確保した新病院整備を行うことが必要です。

(2) 建物の老朽化

本館は築36年（昭和53年12月竣工）、東館は築27年（昭和63年3月竣工）が経過し、施設設備の老朽化が進行しています。また、新たな医療機器の導入による狭あい化、増改築を繰り返してきたことによる動線の複雑化、バリアフリー化への対応の遅れによる療養環境の悪化等、高度な医療を担うことを阻害する要因が生じています。

さらに、平成17年から建替えに向けた検討が行われていることに伴い、既存建物への改修投資が抑えられているため、より一層老朽化が進行している状況にあります。特に給水・給湯配管及び排水管等は、たびたび漏水が発生しており、速やかな対応が必要です。

(3) 建物の狭あい化

病院全体や病棟部門の1床当たり面積、手術部門の手術室1室当たり面積を、近年の同規模病院と比較すると不足している状況です。

また、病室が狭いため現在の医療法上の基準による診療報酬の加算が取得できない状況にあります。特に、療養環境加算の取得にあたっては、一般病床における1床当たりの病室面積は8㎡以上であることが求められますが、現状では、東館病棟の6床室が1床当たり約6㎡であり、基準を満たしていないことから、病室面積の拡大が必要です。

平成25年度に実施した患者アンケートでは、病室、病棟内の環境（ベッド周り、病室の照明・換気・空調等）について、十分な「満足」が得られていないという回答がみられたことから、1人当たりの専有面積の狭い6床室の廃止や、トイレ、浴室等のバリアフリー化の推進、外来診察室等におけるプライバシーの確保等の課題に対する早急な対応が求められています。

1床当たり面積の比較	本院	他病院平均 (JIHA 報告書より 7病院平均)
病院全体	65.30㎡/床	77.20㎡/床
病棟部門	25.00㎡/床	27.28㎡/床
手術室1室当たり面積の比較	本院	他病院平均 (JIHA 報告書より 7病院平均)
手術部門	160.01㎡/室	190.1㎡/室

出典：日本医療福祉建築協会（JIHA） 平成20年「病院の部門別面積に関する研究報告書」

(4) 動線の複雑化

医療の高度化や医療環境の変化に対応するために行ってきた新たな医療機器の導入や度重なる増改築の結果、患者・職員・物品搬送動線の複雑化が著しい状況となっています。その結果、部門配置のわかりにくさや業務の非効率性を招いています。新病院は、機能の集約化等の工夫により、動線を短縮化し、患者の利便性の向上及び業務の効率化を図る必要があります。

(5) 医療技術の高度化への対応

医療技術の高度化や診療報酬制度の変化に柔軟に対応するため、病棟や手術室等の拡充を図る必要があります。